

目次

安全に正しくお使いいただくために

はじめに

第1章	本製品について.....	1-1
第2章	セットアップユーティリティについて.....	2-1
第3章	Windows環境で使用する.....	3-1
第4章	設定に関する機能.....	4-1
第5章	困ったときには.....	5-1
付録	付録-1

【表記について】マニュアルの中で使用している、マークの意味を説明します。

	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる危害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置への重大な障害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	操作上の注意や機能に対する制限事項などが記述されています。正しい操作を行えるように必ずお読みください。
 参考	操作など参考になることを記述しています。操作でわからないときに参考にしてください。

マニュアルで説明している画面やイラストは一例です。ご利用の環境によっては、説明する導入手順や画面の表示が異なる場合があります。

説明の都合で、画面のアイコンやイラストなど、一部省略している場合があります。

- ・本マニュアルの著作権はリコーインダストリー株式会社に帰属します。本マニュアルの一部、または全部を無断で転載、複製、あるいは改変することは法律で禁止されています。
- ・本マニュアルはそれぞれの OS にあわせて注意深く用意しておりますが、将来、バージョンアップや OS に変更のあった場合など、また、パソコンのモニタに実際に表示される表現と差異が出る可能性があります。ご了承ください。
- ・本マニュアル編集にあたって万全を期しておりますが、誤りや設定等の例による結果、または本製品の使用に起因する損害や逸失利益の請求などに対し、弊社はいかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
- ・本マニュアルに記載された仕様、その他については改良のため変更することがあります。
- ・本マニュアルや製品について、お気づきの点または、ご不明な点は弊社カスタマサポートセンターまでご連絡ください。
- ・Microsoft、MS-DOS、Window 等は米国 Microsoft Corporation の米国及び他の国における登録商標です。
- ・UNIX は X/Open カンパニーリミテッドがライセンスしている米国および他の国における登録商標です。
- ・IBM、AIX は米国 IBM 社の商標です。
- ・HP-UX は米国ヒューレットパッカード社の商標です。
- ・Solaris は米国サンマイクロシステムズ社の商標です。
- ・Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Adobe、Acrobat は Adobe System Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
- ・その他、記載されている社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ・This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in OpenSSL Toolkit.
(<http://www.openssl.org/>)

安全に正しくお使いいただくために

■安全に関する共通的な注意については、次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分に理解してください。

- ・操作は、マニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
- ・装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

■シンボルについて安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告

これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



注意

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意

これは、装置の重大な損害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。





【表記例 1】感電注意

この図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

この図記号は行ってはいけないことを示し、図の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

この図記号は行っていただきたいことを示し、図の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

● 操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

● 自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。



落下などによる衝撃

落下させたり、ぶつけたりするなど衝撃を与えないでください。そのまま使用すると感電や火災の原因になります。



包装用ポリ袋について

包装用のポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。



湿気やほこりの多い場所での使用

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍や湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下により、火災や感電の原因になります。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



ACアダプタについて

ACアダプタは、必ず当社専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプタをご使用になったり、専用のACアダプタを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災、感電、故障の原因になります。



電源プラグの抜き差し

- ・電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張ると、コードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
- ・休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
- ・電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと、感電の原因になります。



異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、装置の電源スイッチをOFFにし、装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグが抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- ・電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- ・電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。ほこりや水滴が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。
- ・グラグラしないコンセントを使ってください。



電源スイッチについて

ACアダプタ給電の製品は、プリンタ電源をOFFにしても通電しています。長期間ご使用にならない場合は、コンセントからACアダプタを抜いてください。万一、内部の部品破損した場合は火災の原因となります。



警告



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部が結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、火災や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液などの揮発性の液体を近くで使わないでください。装置の中に入って引火すると火災の原因になります。



修理・改造・分解

自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。



装置内部への異物の混入

通風孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属片や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



注意



アルミ電解コンデンサーについて

電子回路に使用しているアルミ電解コンデンサーは、有寿命部品です。設計寿命は、月200時間使用で約5年です。寿命になると電解液の枯渇や漏れが生じ、発煙・感電の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有償部品単位で交換してください。また、昼夜連続運転相当では5年より寿命は短くなります。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。



金属などの端面への接触

装置の移動などで金属や基板などの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。



目的以外の使用

プリントサーバー本来の目的以外に使用しないでください。故障の原因になります。



信号ケーブルについて

- ・ケーブルは足などに引っかけないように配線してください。足を引っかけると、けがや装置の故障の原因になります。また、データが失われるおそれがあります。
- ・ケーブル上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、装置の故障の原因になります。



屋外での使用

屋外では使用しないでください。故障の原因になります。



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。

- ・テレビやラジオなどからできるだけ離す
- ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
- ・コンセントを別にする



製品の廃棄

本製品を廃棄するときには廃棄物管理表(マニフェスト)の発行が義務づけられています。詳しくは、お買い求め先にご相談いただくか、各都道府県産業廃棄物連合会にお問合せください。廃棄物管理表は(社)全国産業廃棄物協会に用意されています。

はじめに

このたびは、本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、本製品の設定およびご利用方法を記載したものです。正しく安全にお使いいただくためにご熟読ください。

本製品の導入

本製品の導入手順について説明します。ご利用の環境に合わせた手順で本製品をネットワークに接続し、ご利用のプリンタをネットワークプリンタとしてお使いいただくことができます。本製品の導入手順に従って、本マニュアルの関係する章を参照しながら、導入を進めてください。



注意

・ご利用の環境によっては、以下で説明する導入手順や画面表示が異なる場合があります。



参考

・ご利用のコンピュータに予めプリンタドライバをインストールしてください。

本製品の導入

本製品の設定が行えるユーティリティは以下のとおりです。ご利用の環境にあわせた設定ユーティリティをご利用ください。

設定ツール	Quick Setup	本製品の初期導入を行う	第 3 章
	RI-Print Manager Start up	本製品の詳細設定および設定変更 管理を行う	第 4 章
	RI-Print	印刷クライアントをインストールする	第 3 章

本製品の導入と設定(管理者編)

本製品の導入と設定手順について説明します。

1.取付け	本製品をプリンタとネットワークに接続する。	第 1 章
2.設定	Windows で本製品を使用する	第 3 章

本製品の設定

本製品の導入と設定手順について説明します。

1.設定	Windows で本製品を使用する	第 3 章
2.印刷	テストプリント(自己診断印字)を行い、設定の確認を行う	第 1 章

本製品の詳細設定、設定変更、管理を行う

本製品の詳細設定や設定変更、管理を行う総合ユーティリティ RI-Print Manager Start up のご利用方法 について説明します。

設定に関する機能	RI-Print Manager Start up で設定する	第 4 章
	Webブラウザで設定する	第 4 章
	TELNETで設定する	第 4 章

第1章 本製品(C5200H)について.....	1-2
動作環境.....	1-3
機器の説明.....	1-4
各部の名称と働き.....	1-4
プッシュスイッチの機能.....	1-5
設定情報を印刷する.....	1-6
取り付け方法.....	1-8
本製品を取り付ける.....	1-8
ネットワークに接続する.....	1-9
主な機能仕様.....	1-10
機能.....	1-10
ハードウェア仕様.....	1-12
ソフトウェア仕様.....	1-12

第 1 章 本製品(C5200H)について

本製品は、10BASE-T、100BASE-TX 対応のプリントサーバーです。本製品によってイーサネットとプリンタを接続し、イーサネットケーブルが敷設されている場所であればどこでもプリンタを設置することができます。イーサネット内であればどこからでも印刷を行うことができるので、1 台のプリンタを複数のユーザで共有することもできます。本製品はTCP/IP に対応しています。設定はQuick Setup, RI-Print Manager Start up, TELNET, WWW ブラウザからの設定(HTTP)が可能です。また、本製品では第三者による印刷データの盗用や改ざんを防止するため、暗号化と承認を用いたセキュア(SSL)印刷機能、設定したIP アドレスの範囲外や通信プロトコル以外のアクセスを制限する機能をサポートしています。これにより、セキュリティ機能の強化を図りました。



参考

・SSL(Secure Socket Layer)

SSL はインターネットで個人情報などを入力する際に盗聴やなりすまし防止に利用される通信方式で、一般化されたセキュリティ機能のひとつです。このSSL を利用し、印刷を行う際に印刷データを暗号化、プリントサーバーで復号化する機能を実装しています。なお、本製品では以下の条件で本機能をサポートしています。

- ・対応OS :Windows Vista/7/8/8.1/10/
Windows Server2008/Server2008 R2/Server2012/Server2012 R2/
Windows Server2016

- ・対応プロトコル:IPP,HTTPS

- ・セキュリティ対策追加

ネットワークプリンタのセキュリティ対策として、IP フィルタ機能を搭載しています。

本機能は、設定したIP アドレスの範囲外からのアクセスを制限する機能です。

設定した範囲外のIP アドレスからのアクセスを禁止することで、プリンタを予期せぬアクセスから保護します。

また、セキュリティレベル設定機能により、設定したプロトコル以外のアクセスを排除する機能を追加しました。

動作環境

本製品に必要な環境は、以下の通りです。

○ネットワークに接続する為に必要な機器

- ・10BASE-T(ツイストペア)ケーブル

100BASE-TX環境ではカテゴリ-5以上を使用してください。

○ネットワークコンピュータ

- ・対応OS

Windows Vista/7/8/8.1/10/

Windows Server2008/Server2008 R2/Server2012/Server2012 R2/

Windows Server2016

- ・対応プロトコル TCP/IP



・NetBEUIはサポートしていません。

注意

○動作環境条件

温度: +0°C ~ +40°C

湿度: 20% ~ 80%RH(但し、結露状態でないこと)

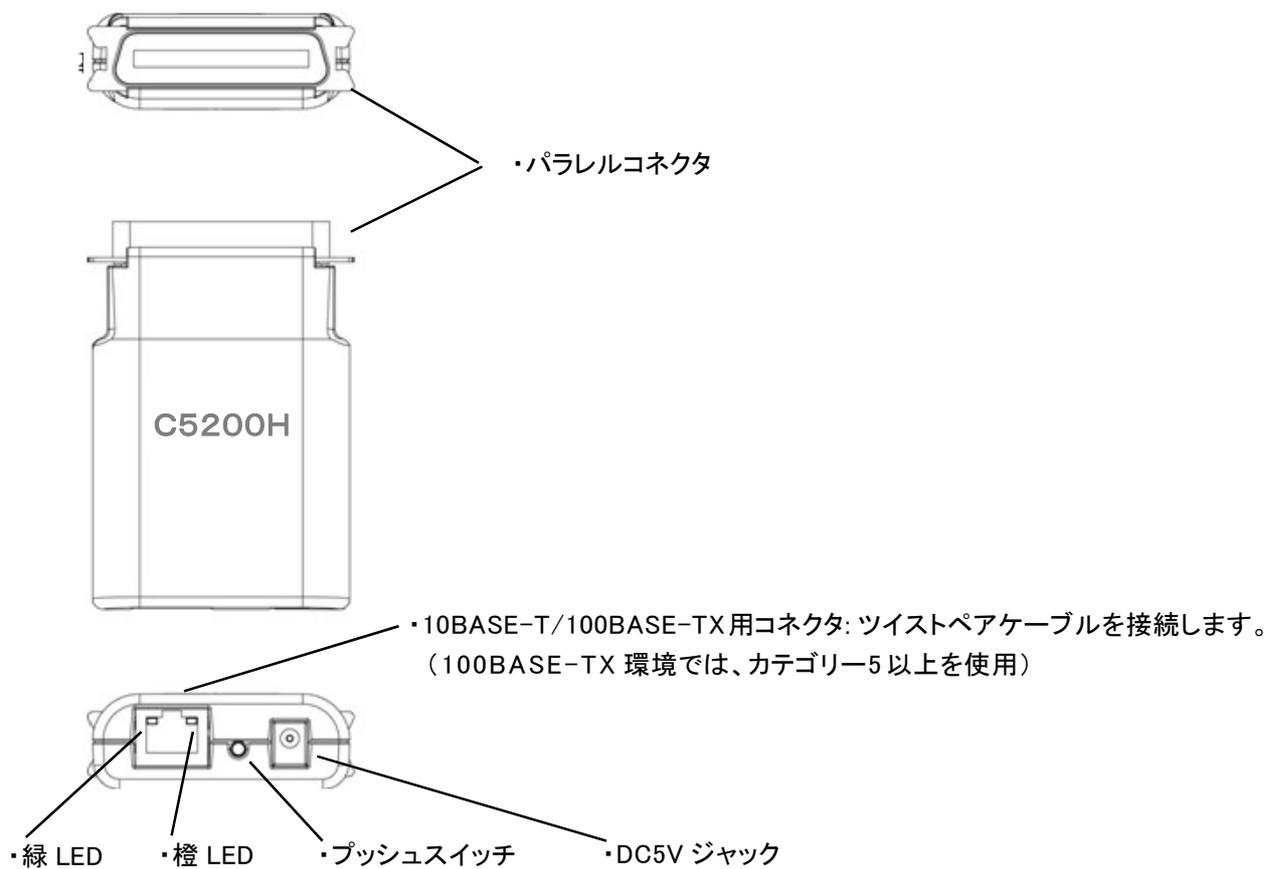
○保存環境条件

温度: -10°C ~ +50°C

湿度: 20% ~ 90%RH(但し、結露状態でないこと)

機器の説明

各部の名称と働き



- ・緑 LED 点滅 : 電源 ON
点灯 : Ethernet 接続
- ・橙 LED 点灯 : データ受信

プッシュスイッチの機能

・プッシュスイッチの機能は以下の通りです。

(1)初期化

プッシュスイッチを押したまま電源を投入(DC5V プラグを差し)します。そのまま、2 秒以上経過し、橙 LED が点灯したのを確認した後、プッシュスイッチを離すと設定が初期化されます。

(2) 自己診断・設定情報印刷

電源が入ったままプッシュスイッチを 5 秒以上押し続け、プッシュスイッチを離すと自己診断・設定情報印刷を開始します。

[自己診断]

自己診断では、ハードウェアやネットワークのテストを行います。

自己診断印刷の結果にNGがある場合は、「第 5 章トラブルシューティング」を参照してください。

自己診断の印字例を次に示します。

○自己診断印刷例

RICOH INDUSTRY C5200H Version **1.0.0**

Copyright(c) 2016 RICOH INDUSTRY CO.,LTD.

```
*** Diagnostic report ***
  ROM Check : OK  stat: C470 FFFF 0000 0000
  RAM Check  : OK  stat: 0000 0000 0000 0000
  NIC Check  : OK  addr: 00:80:92:5F:2A:43
  EEPROM Check : OK  stat: E72C E72C 0000 0000
```

SW : OFF



注意

- ・自己診断印刷結果の ROM Check、RAM Check、NIC Check、EEPROM Check に NG がある場合は、保守会社に連絡ください。
- ・項目中の **1.0.0** は装置毎に異なります。



参考

- ・IP アドレスを設定するときに、本製品の Ethernet アドレスを確認する必要がありますので、自己診断印刷を行い、印刷結果の Ethernet アドレスを確認してください。

設定情報を印刷する

○設定情報印刷例

```

RICOH INDUSTRY C5200H Version 1.0.0
Copyright(c) 2016 RICOH INDUSTRY CO.,LTD.
*** Configuration report ***
<< Setup General >>
  root password                : "*****"
  LAN interface                 : AUTO
<< Setup TCP/IP >>
  IP address                   : 192.168.0.64
  Subnet mask                   : 0.0.0.0
  Getway address               : 0.0.0.0
  RARP protocol                 : DISABLE
  DHCP/BOOTP protocol         : DISABLE
  IPv6 Function                 : DISABLE
  NetworkPnP Enable           : ENABLE
  TCP#9100 Bi-Directional mode : DISABLE
<< Setup TCP/IP - IP Filter Config >>
  Filter Mode                   : DENY
  Filter #0 Start Address       : 0.0.0.0
  Filter #0 End Address         : 0.0.0.0
  Filter #1 Start Address       : 0.0.0.0
  Filter #1 End Address         : 0.0.0.0
  Filter #2 Start Address       : 0.0.0.0
  Filter #2 End Address         : 0.0.0.0
  Filter #3 Start Address       : 0.0.0.0
  Filter #3 End Address         : 0.0.0.0
<< Setup TCP/IP - Security Configuration >>
  LPR                           : ENABLE
  RAW                           : ENABLE
  IPP                           : ENABLE
  HTTP                          : ENABLE
  HTTPS                         : ENABLE
  TELNET                        : ENABLE
  FTP                           : ENABLE
  SNMP                          : ENABLE
  Setup Protocol (JCP)         : ENABLE
<< Setup SNMP >>
  Authentic community           : "*****"
  Trap community                 : "public"
  Trap address                   : 0.0.0.0
  SysContact                     : ""
  SysName                        : ""
  SysLocation                    : ""
  DefaultTTL                     : 255
  EnableAuthenTrap              : 2
<< Setup print port >>
  BOJ string                     : ""
  EOJ string                     : ""
  BOJ string(KANJI)             : ""
  EOJ string(KANJI)             : "%f"
  Printer type                   : ESC/P
  TAB size (char.)              : 8

  Page width (char.)            : 0
  Page length(line)             : 0
  lpr/ftp banner                 : NO
  Print port mode                : NONE
<< Setup Another >>
  Print Trap community           : "public"
  Print Trap Address             : 192.168.0.100
  PE/Reboot                      : DISABLE
  Printer Class                  : AUTO
<< Configure Secure Print >>
  Secure Print                   : ENABLE

```



参考

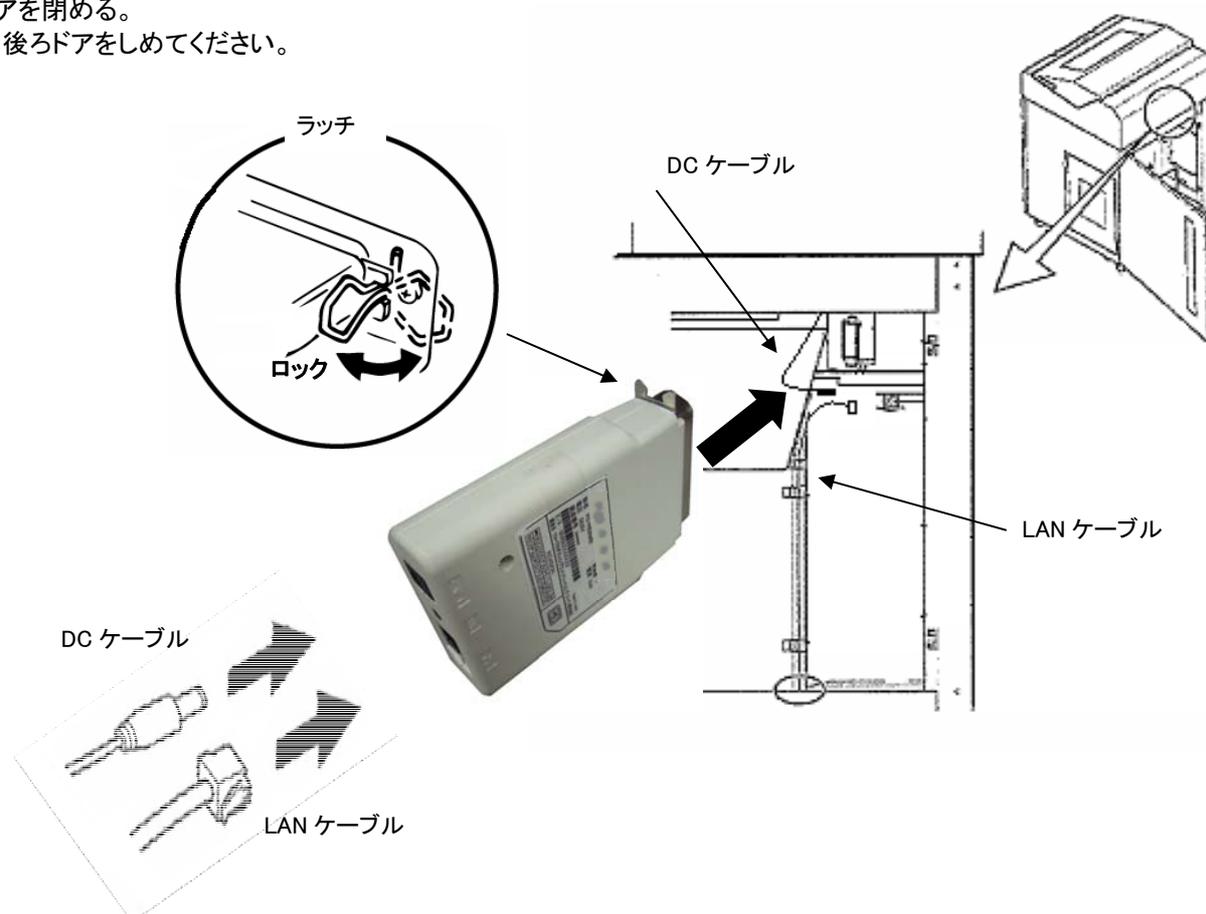
- ・設定情報印刷により、本製品の設定が確認できます。本製品を設定する際にご活用ください。ただし、設定値に“*”が表示されているものは、設定変更をしても値を表示しません。
- 本項目の工場出荷時設定については「第4章 設定に関する機能」を参照してください。
また、本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理してください。

取り付け方法

本製品を取り付ける

KD55AH プリンタに取り付ける

- 1 プリンターの電源を切る
プリンターの電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。
- 2 プrintサーバーを接続する
後ろドアを開きパラレルコネクタにPrintサーバーを接続しラッチ両側をロックしてください。
- 3 LAN ケーブル/DC ケーブルを接続する
プリンタ底部穴からLAN ケーブルを引き込んで、Printサーバーに接続しケーブルクランプで固定してください。
プリンタ内部のDC ケーブルを、Printサーバーに接続しケーブルクランプで固定してください。
- 4 ドアを閉める。
後ろドアをしめてください。



プリンタのマニュアルを参照し、設定モードで、次の通り、設定項目の変更を行ってください。

- ・「TOF 位置での FF」-「ムコウ」
- ・「接続形態」-「LAN 接続」

プリンタドライバは下記の設定で使用してください。

- ・「プリンタドライバ」-「プロパティ」-「ポート」-「双方向サポートを有効にする」のチェックを外す。



参考

・他のプリンタにPrintサーバーを取り付ける場合は、各プリンタのマニュアルを参照し、取り付け位置をご確認ください。

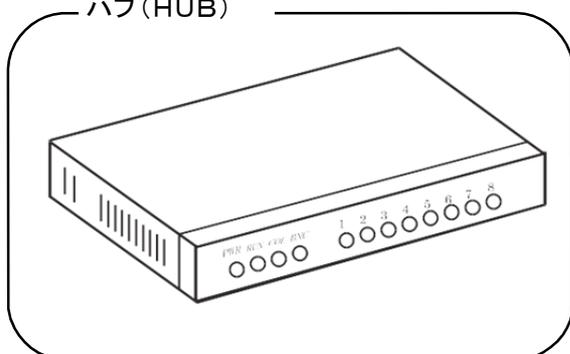
ネットワークに接続する

本製品をネットワークに接続するためには、以下のものがが必要です。

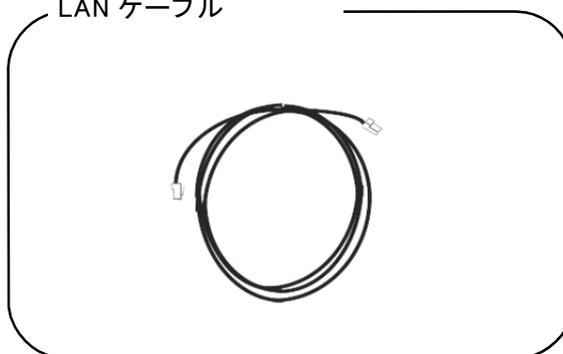


- ・ 100BASE-TX環境でお使いの場合は、100BASE対応のハブとツイストペアケーブル（カテゴリ-5）をご用意ください。

ハブ(HUB)



LAN ケーブル



○ネットワークへの接続方法

1. プリンタの電源スイッチをOFFにしてください。
2. 本製品の10/100BASEコネクタにLANケーブル(ツイストペアケーブル)を接続します。
3. ハブ(HUB)に、ケーブルのもう一方を接続します。

主な機能仕様

本製品の主な機能仕様を以下に示します。

機能

○ DHCP、BOOTP、RARPによる自動IP 設定機能

・DHCP/BOOTPについて

本製品は、DHCP/BOOTPプロトコルを搭載しておりDHCP/BOOTPサーバが動作しているネットワーク内において、TCP/IP 関連の設定を行うことができます。本製品の DHCP/BOOTP 設定を Enable にすることで、DHCP/BOOTPサーバ上に設定されているTCP/IP関連の情報を本製品に設定することができます。



・本製品がサポートしているDHCPプロトコルは、基本的にRFC2131/2132に準拠しています。
・Windows DHCP Server に対応しています。

注意 ・本製品のDHCP 機能をご利用になられる場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

・RARPについて

本製品は、RARP プロトコルを搭載しておりRARP サーバが動作しているネットワーク内において、IP アドレスの設定を行うことができます。本製品の RARP 設定を Enable にすることで、RARP サーバ上に設定されているIPアドレスを本製品に割り当てることができます。

○WWW ブラウザ

本製品はHTTP サーバを搭載しており、WWWブラウザから本製品にアクセスしてプリンタの状態表示や設定の変更を行なうことができます。



注意

・HTTPの動作環境については、WWWブラウザが、Internet Explorer4.0以降および Netscape Navigator2.0以降のバージョンを推奨します。その他のブラウザをご使用になる場合は、少なくともHTTP 1.0(RFC1945) とHTML 2.0(RFC1866) に対応している必要があります。

・HTTPをご利用になられる場合は、本製品のTCP/IPプロトコル設定が有効であり、本製品の IP アドレスが設定されている必要があります。

○漢字フィルタ機能(FTP、LPD)

・漢字フィルタは入力データを、漢字+ASCIIの文字列とみなし、漢字をプリンタネイティブのエスケープコード(LIPS、PR201、ESC/P等プリンタが直接認識できるデータ形式)に変換して出力します。この時同時に改行コードの変換、タブコードの変換を行なうことができます。

・漢字フィルタ機能の使用/ 不使用は、内部論理ポート名(lp、sjis、euc)の使い分けにより行ないます。lpポートは無変換のスルー出力を、sjis、eucはそれぞれシフトJIS、EUCの漢字コードに変換を行ないます。

○セキュア(SSL)通信印刷機能／IPフィルタ機能／セキュリティレベル設定機能

- ・セキュア(SSL(Secure Sockets Layer))通信印刷機能を用いた暗号化と認証機能により、第三者 による印刷データの盗用や改ざんを防ぐことができます。本製品では、特別な外部認証機関を利用することなく、本製品から簡単に証明書を発行することができます。
- ・本製品はIPフィルタ機能により、IPアドレスのフィルタリングによる設定範囲外のIPアドレス からの通信を抑制する機能のほかに、セキュリティレベル設定機能により、通信可能プロトコルの設定ができます。そのため、不正IPアドレスからのアクセス、使用していないプロトコルによる通信を排除することができます。

ハードウェア仕様

○コントローラ

ARM9 166MHz

○メモリ

RAM : 8MByte

FlashROM : 2MByte

○ネットワークインタフェース

10BASE-T/100BASE-TX1ポート(10/100BASE自動認識)

○プリンタインタフェース

セントロニクス(36P アンフェノール)

○その他

機能スイッチ : プッシュスイッチ

LEDランプ : ステータス

ソフトウェア仕様

○対応プロトコル

TCP/IP

・TCP/IP部

ネットワーク層: ARP,RARP,ICMP,IP

セッション層: TCP,UDP

アプリケーション層: RAW(9100)Port,LPR,FTP,TELNET,BOOTP,SNMP,HTTP,HTTPS,IPP,DHCP

IPアドレスは、設定ユーティリティ等で設定可能

第2章	セットアップユーティリティについて	2-2
	セットアップユーティリティについて	2-2
	セットアップユーティリティをWindowsで使用する	2-2

第2章 セットアップユーティリティについて

セットアップユーティリティについて

本章では、製品添付CD-ROMに収録されているセットアップユーティリティについて説明します。



・Windows 以外のOSでは、セットアップユーティリティはご利用になれません。

注意 ・セットアップユーティリティは、Internet Explorer5.0以降のブラウザ環境でご利用ください。

セットアップユーティリティを Windows で使用する

本製品付属のCD-ROMをWindowsパソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



・メニューが自動的に起動しない場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある‘Autorun.exe’を直接実行してください。



○お読みください

本CD-ROMについての注意事項や、本製品のお問い合わせ先等が記載されています。

ご利用の前に必ずお読みください。

○Quick Setup / RI-Print Manager Start up / RI-Print

本製品の設定ツール(Quick Setup, RI-Print Manager Start up)及び統合クライアントソフトウェア(RI-Print)のインストールを行います。

○マニュアル

Adobe Acrobat Readerを利用したPDF形式のマニュアル(取扱説明書)です。

メニュー画面の「Quick Setup」「RI-Print Manager Start up」「RI-Print」を選択すると本製品の設定ツール画面が表示されます。



参考

・本製品の初期導入が完了している場合は、RI-Print をお使いのパソコンにインストールするだけで、本製品をご利用いただくことができます。

・ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっていると、Quick Setup および RI-Print Manager Start up で本製品を検索できないことがあります。そのようなときは、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

○ Quick Setup (初期導入時推奨)

本製品の初期導入がウィザード形式で簡単に行えます。また、初期導入に引き続いて印刷クライアントソフトウェア RI-Print をインストールすることができます。

○ RI-Print Manager Start up

総合ユーティリティ「RI-Print Manager Start up 」を起動またはインストールします。「RI-Print Manager Start up」は、本製品の詳細設定と、本製品およびプリンタの管理を行うことができます。

○ RI-Print

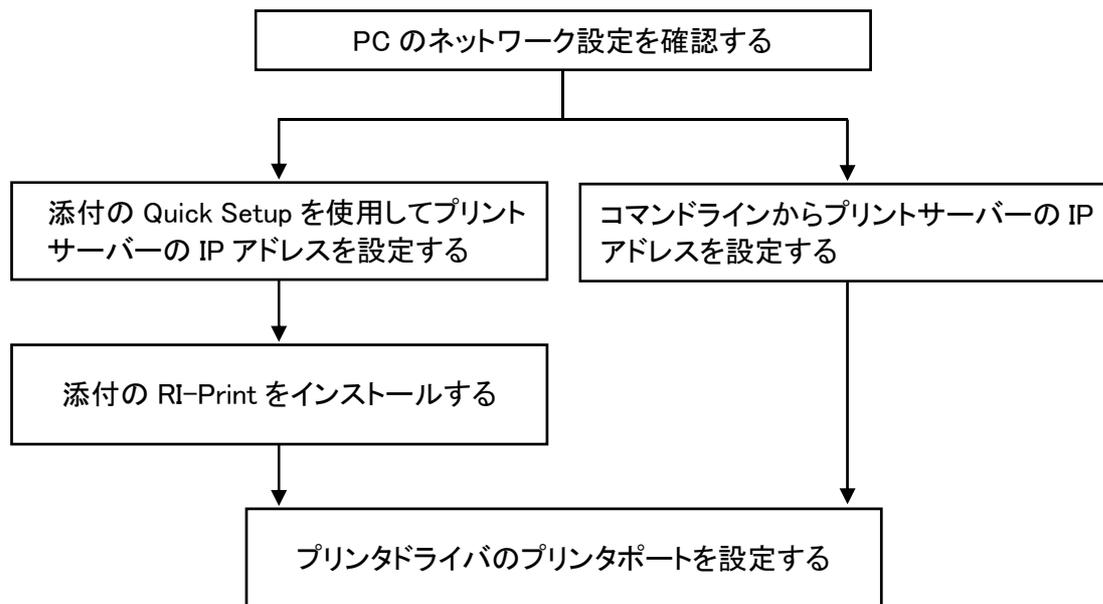
本製品に対してWindows から直接印刷するための総合クライアントソフトウェアをインストールします。セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、RI-Print で作成するIPP ポートをご使用いただくことを推奨します。

第 3 章 Windows で使用する	3-2
PC のネットワーク設定を確認する	3-3
Quick Setup による簡単設定	3-5
RI-Print をインストールする	3-9
印刷ポートを追加する	3-12
RI-Print LPR ポートを追加する場合	3-13
RI-Print IPP ポートを追加する場合	3-15
RI-Print Raw(TCP/IP 9100) ポートを追加する場合	3-18
プリンタドライバの設定	3-20
OS 標準の印刷クライアント機能で印刷する	3-22
Standard TCP/IP ポートで印刷する	3-22

第 3 章 Windows で使用する

本章では、Windows 環境で本製品を接続し TCP/IP で印刷を行う方法について説明します。

本製品を TCP/IP プロトコルを利用して印刷する際の手順は以下の通りです。



本章では QuickSetup の導入から RI-Print のアプリケーションインストールにより機能設定をする方法、及び OS の印刷クライアントによる設定方法を説明します。TELNET によるコマンドライン操作での設定方法は次章で説明します。



参考

- ・あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、RI-Print で作成した IPP ポートの使用を推奨します。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になる SSL 証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を使用して印刷をすると、印刷データを暗号化します。そのため、第三者による印刷データの盗用や改ざんを防止することができます。

PC のネットワーク設定を確認する

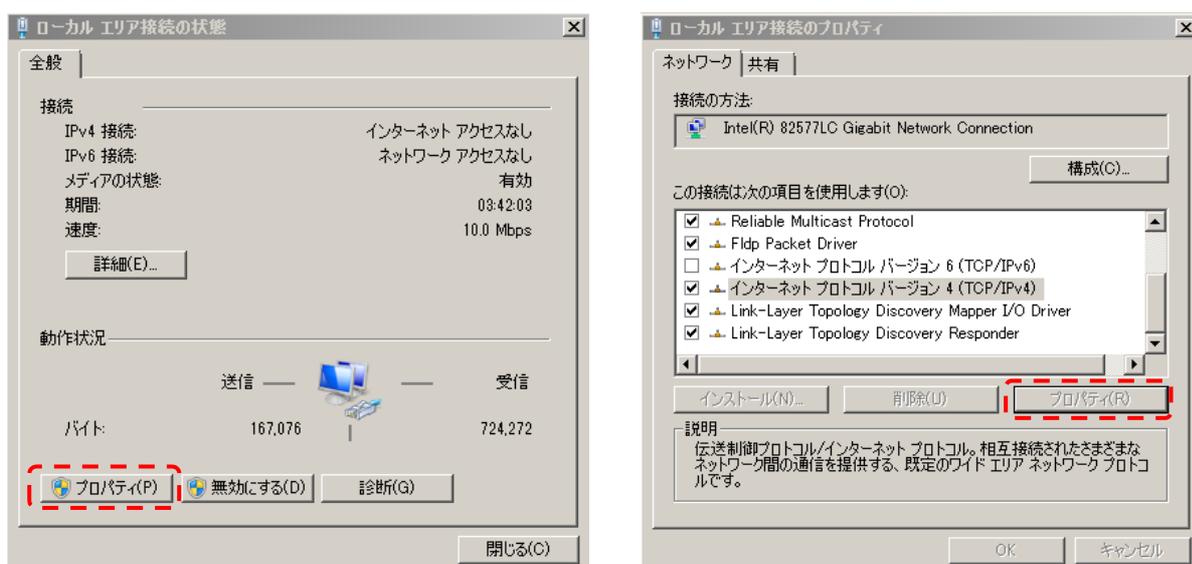
Windows 7 の例

Windows に[インターネットプロトコル(TCP/IP)]が選択されている事を確認します。

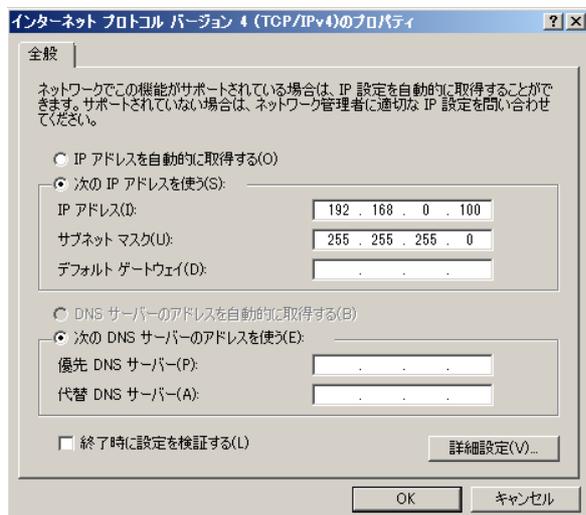
- 1.「スタート」-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット」-「ネットワークと共有センター」-「ローカルエリア接続」を開きます。



- 2.ローカルエリア接続の「プロパティ」を開き、「インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)」を選択して、その「プロパティ」を開きます。



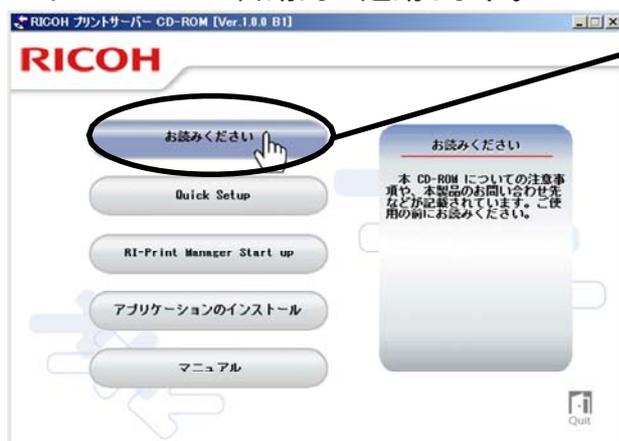
3. [全般]で、ご使用の環境に合わせた設定が行われているか確認してください。



※上記のアドレス値は参考例です

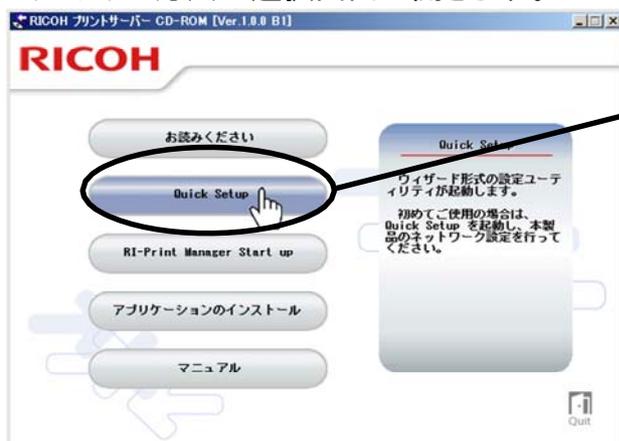
Quick Setup による簡単設定

1. 本製品付属の CD-ROM(セットアップユーティリティ)を Windows パソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



「お読みください」をクリックしてください。この CD-ROM についての注意事項や本製品の問合せ先等が記載されています。ご利用の前に必ずご一読ください。

2. セットアップ方法の選択画面が開きます。



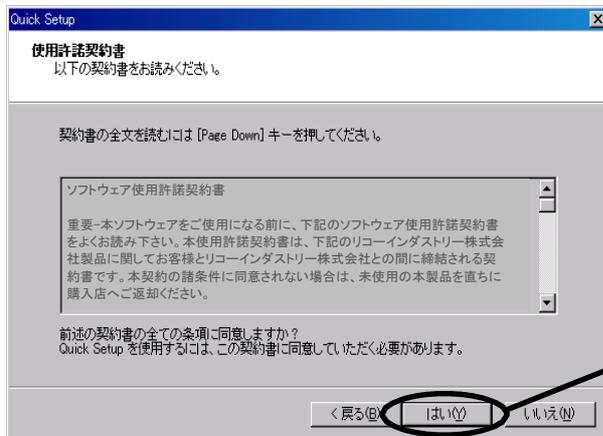
「Quick Setup」をクリックしてください。

3. Quick Setup が起動します。



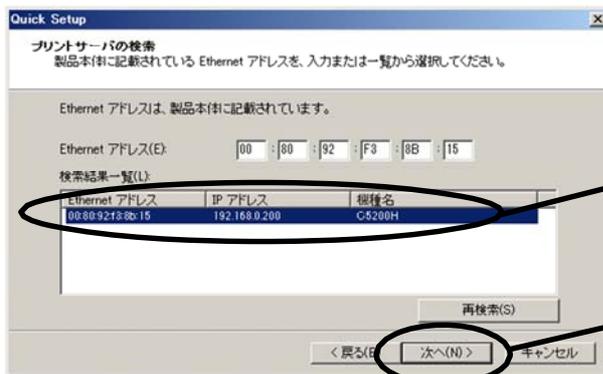
次へ をクリックしてください。

4.ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

5.本製品を選択します。



設定を行う本製品を選択してください。

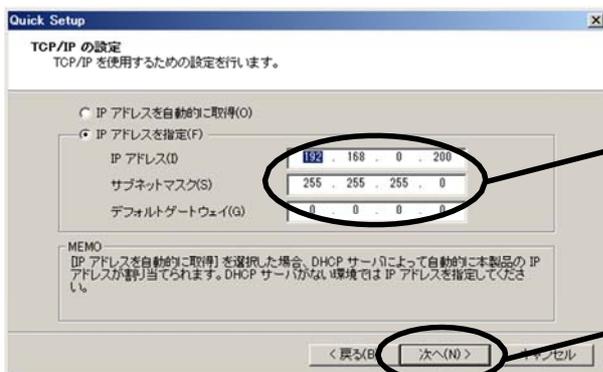
次へ をクリックしてください。



- ・検索結果一覧に本製品が表示されていない場合は「再検索」をクリックしてください。Ethernet アドレスを直接入力することで本製品を選択することもできます。
- ・本製品の Ethernet アドレスは、自己診断印刷結果または本製品底面にシール表示で記載されています。(例:00:80:92:F3:8B:15)

6.IP アドレスを設定します。

<初期導入の場合>

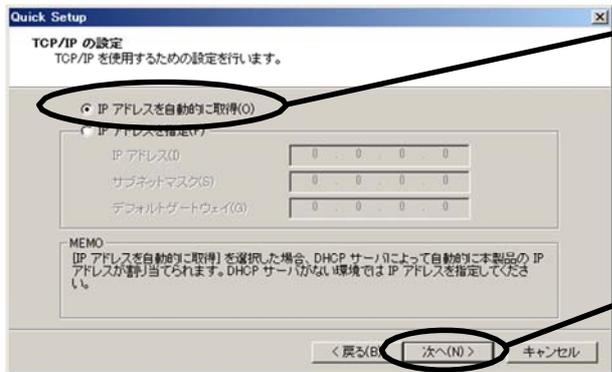


任意の IP アドレスを指定してください。

次へ をクリックしてください。

＜本製品に IP アドレスが設定されている場合＞

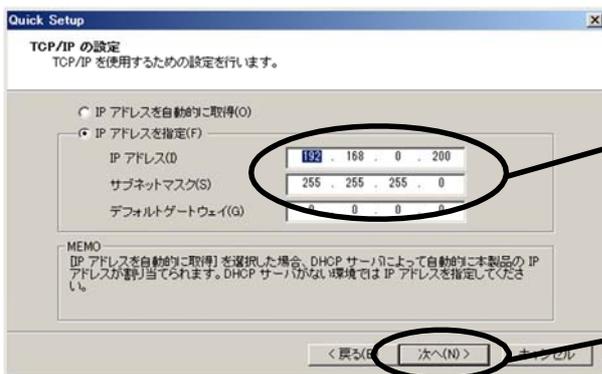
(A) DHCP サーバが稼働している環境下で、DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する場合



IP アドレスを自動的に取得する」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

(B) 手動で IP アドレスを設定する



任意の IP アドレスを設定することができます。

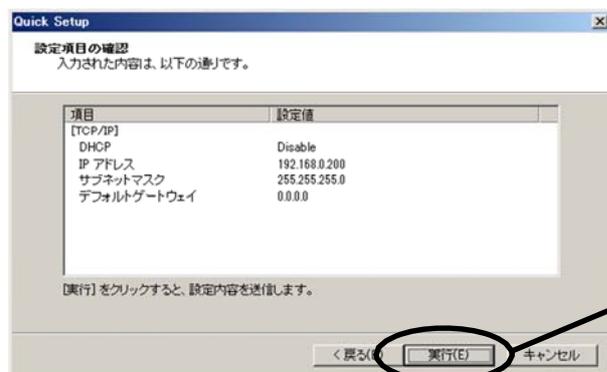
次へ をクリックしてください。



参考

・DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する設定にする場合は、予め本製品の IP アドレスが設定されていなければなりません。その場合は、本製品と設定をするコンピュータのネットワークケーブルをクロスケーブルに変更し、仮の IP アドレスを設定して HUB やルータを介さずに直結して設定をしてください。

7. 設定完了です。設定内容を表示します。



実行 をクリックしてください。
設定した値が保存されます。



参考

- ・ 引き続き RI-Print をインストールしてください。RI-Print は Windows から直接印刷を行うための印刷クライアントソフトウェアです。
- ・ Windows の環境で、OS 標準の印刷機能をご利用になる場合は、本章中の「OS 標準の印刷クライアント機能で印刷する」をご参照ください。
- ・ 更に詳細な設定を行う場合は、「第 4 章 設定に関する機能」を参照してください。

RI-Print をインストールする

RI-Print は、LPR 機能(弊社製品専用)、IPP 機能および、Raw モード(TCP/IP9100)機能がご利用いただける印刷クライアントソフトウェアです。インストールが完了すると、プリンタポート追加ウィザードが起動します。

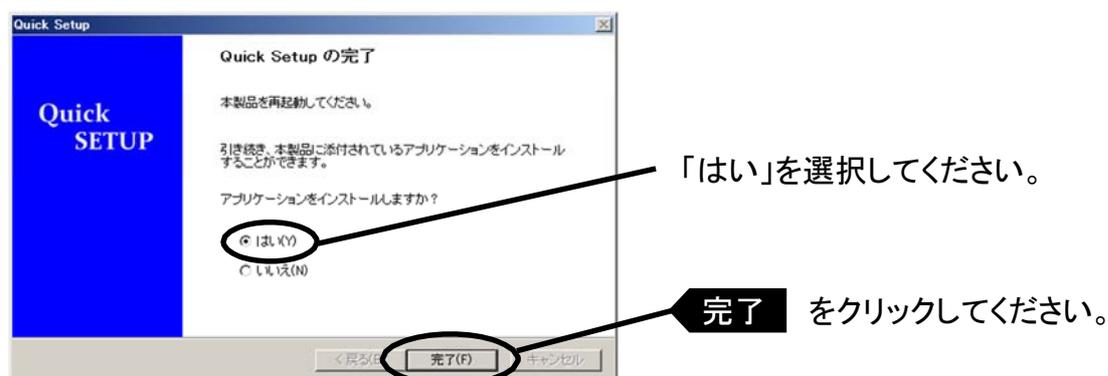


参考

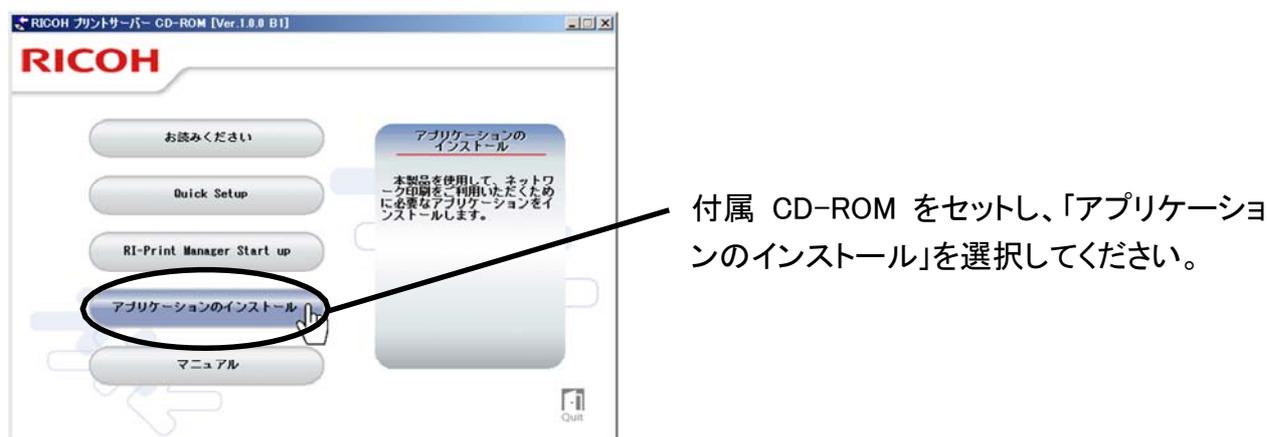
- ・LPR(Line Printer Remote)機能(本 LPR ポートをご使用いただくことを推奨します。)
 - ローカルエリアネットワーク(LAN)上のプリンタに印刷することができます。
 - 一般に広く使用されているプロトコルです。
- ・IPP(Internet Printing Protocol)機能
 - LAN 上のプリンタに印刷する他に、インターネットを経由して遠隔地のネットワークプリンタに印刷することができます。また SSL(セキュア)通信印刷機能が使用できます。
- ・Raw モード(TCP/IP9100)機能
 - ローカルエリアネットワーク(LAN)上のプリンタに印刷することができます。印刷データのスプールを行わずに高速に印刷することができます。

1. インストール方法を確認します。

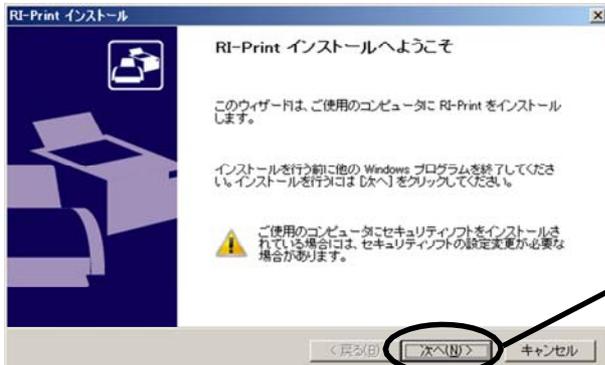
(A) Quick Setup から続いてインストールする場合



(B) RI-Print のみインストールする場合



2. RI-Print インストールウィザードが起動します。



次へ をクリックしてください。

3. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

4. インストール先のフォルダを指定します。



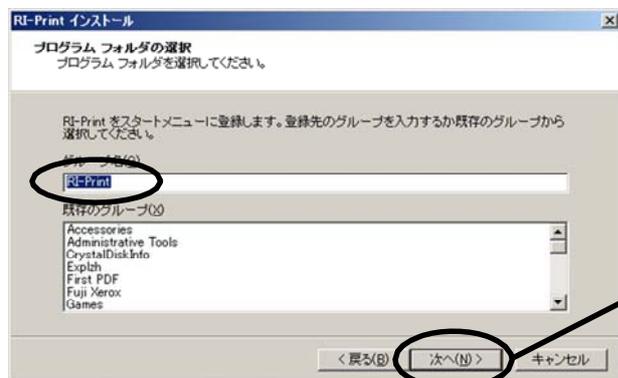
次へ をクリックしてください。



参考

・[参照]をクリックするとインストール先フォルダを選択できます。

5. スタートメニューに表示されるグループ名を入力します。



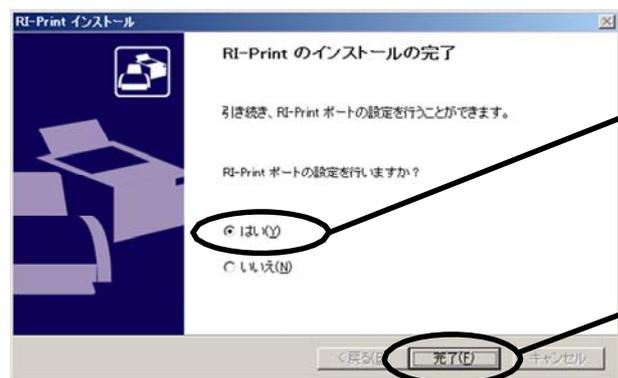
次へ をクリックしてください。

6. インストールを開始します。



開始 をクリックしてください。

7. インストール完了です。



「はい」を選択してください。

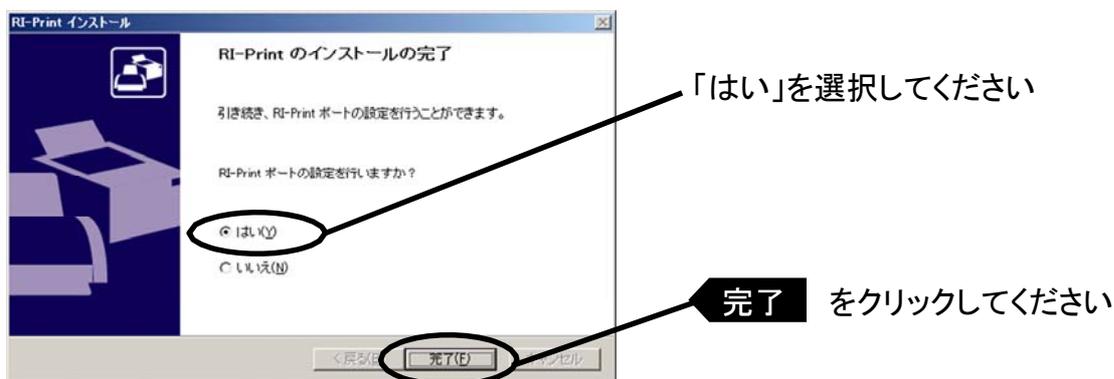
完了 をクリックしてください。

印刷ポートを追加する

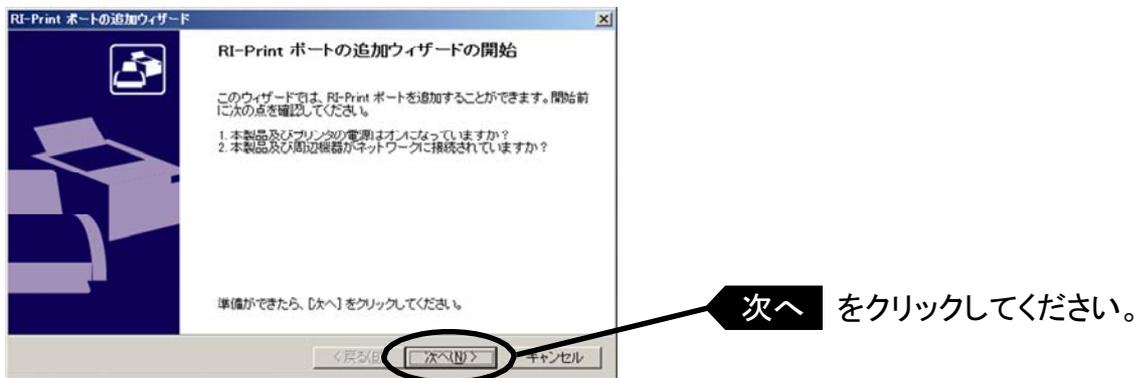
本製品では RI-Print の、「LPR で印刷する」「IPP で印刷する」「Raw モードで印刷する」の3つのポート作成方法をご利用いただけます。印刷に使用するプロトコルを選択し、「次へ」をクリックすると、各印刷方式のポート作成画面へ移ります。

(A) RI-Print インストールから続いて追加する。

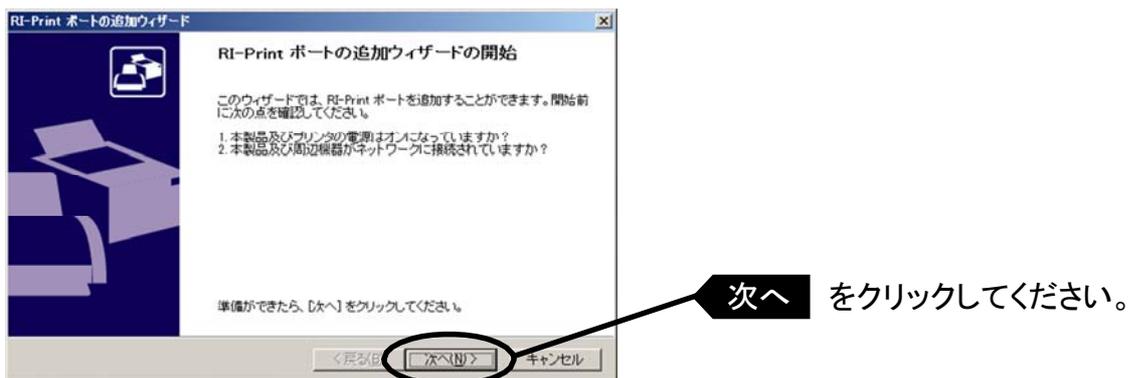
1. 「はい」を選択し、「完了」をクリックしてください。



2. RI-Print ポートの追加ウィザードが開始します。

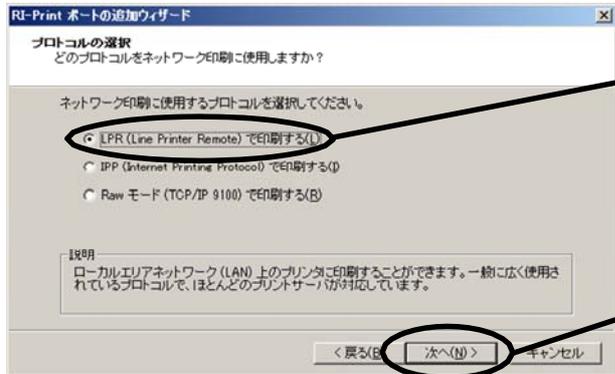


(B) 「スタート」-「プログラム」-「RI-Print」にある「RI-Print ポート追加」から追加する。



RI-Print LPR ポートを追加する場合

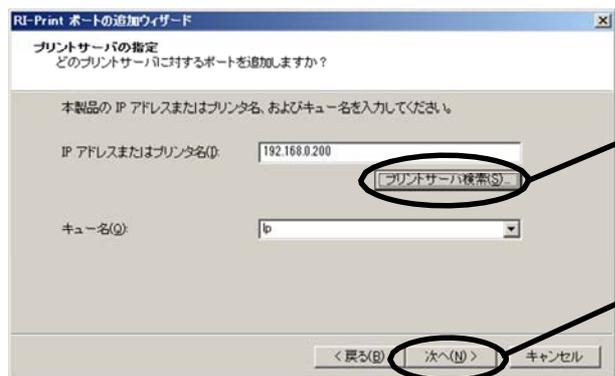
1.LPR(Line Printer Remote)を選択します。



「LPR (Line Printer Remote) で印刷する」を選択します。

次へ をクリックしてください。

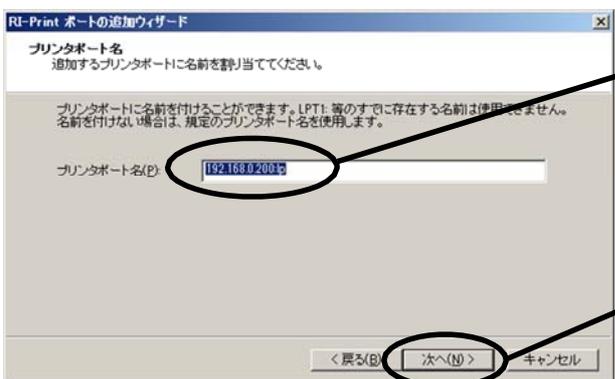
2.「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバの一覧を表示させ、本製品を選択してください。



「プリントサーバ検索」ボタンをクリックして表示された検索結果から、本製品を選択してください。

次へ をクリックしてください

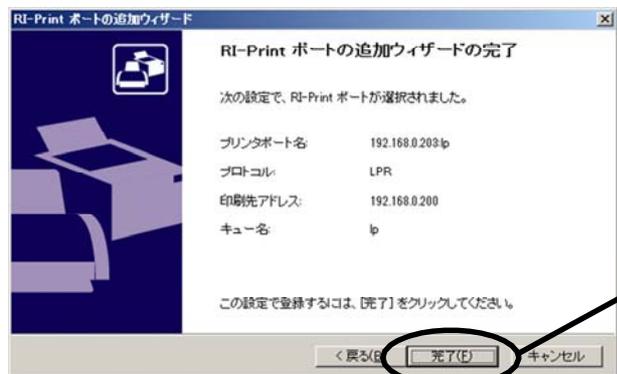
3.プリンタポート名を入力します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンタポート名をご使用ください。

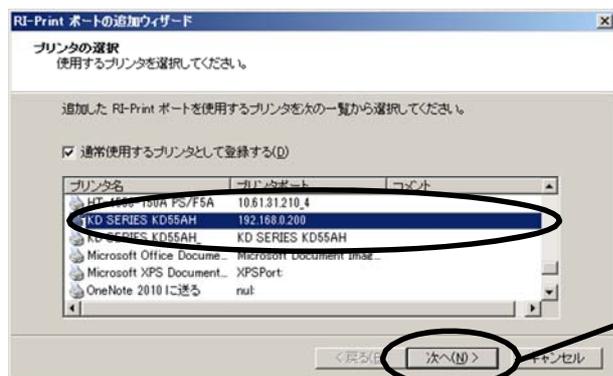
次へ をクリックしてください。

4. 設定内容を確認します。



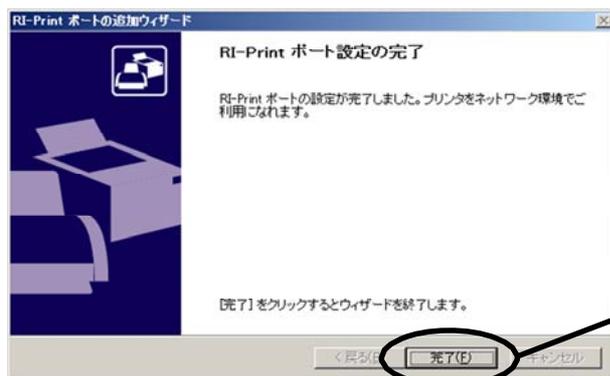
完了 をクリックしてください。

5. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

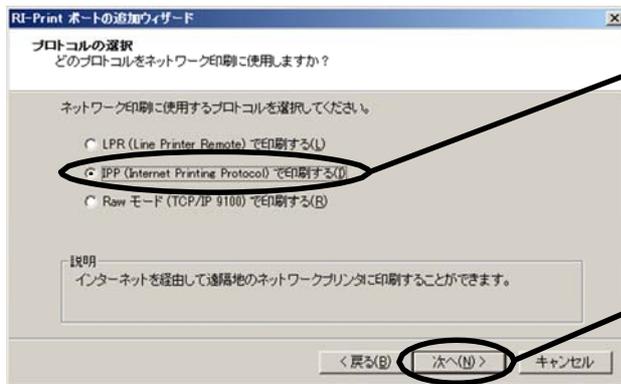
6. ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

RI-Print IPP ポートを追加する場合

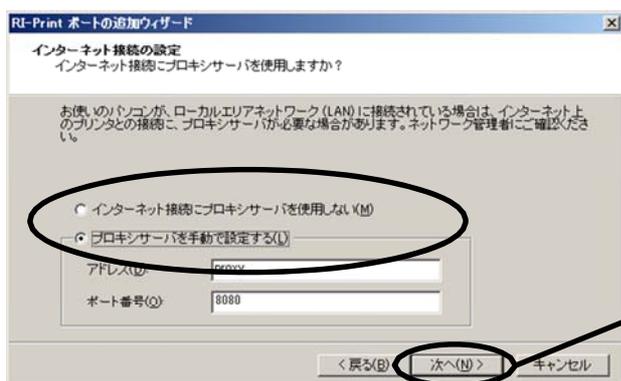
1. IPP(Internet Printing Protocol)を選択します。



「IPP (Internet Printing Protocol) で印刷する」を選択します。

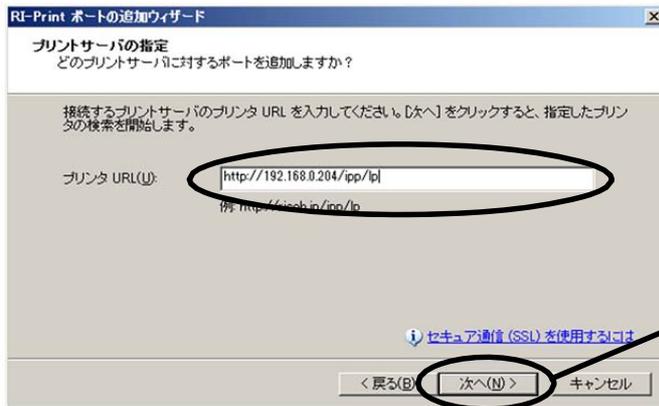
次へ をクリックしてください。

2. 「インターネット接続にプロキシサーバを使用しない」又は、「プロキシサーバを手動で設定する」を選択してください。



次へ をクリックしてください。

- 3.「プリンタ URL」には、印刷先の本製品に割り当てられた URL を入力してください。
URL は “http:// ~ /ipp(/lp)” または “https:// ~ /ipp(lp)” と指定してください。
「次へ」をクリックすると、指定された URL が存在するか、確認を行います。



次へ をクリックしてください。

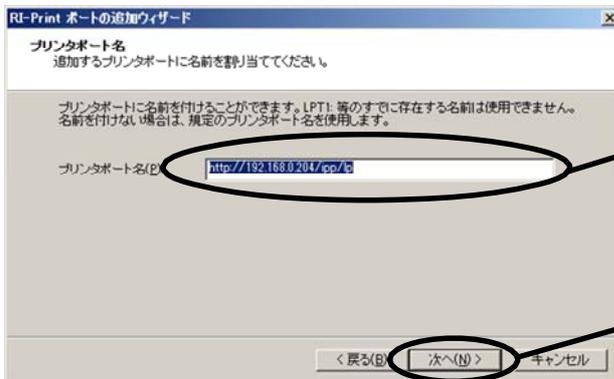


- ・URL が「abc.co.jp」でセキュア(SSL)通信印刷機能を使用しない場合
http://abc.co.jp/ipp または http://abc.co.jp/ipp/lp
- 参考 ・URL が「abc.co.jp」でセキュア(SSL)通信印刷機能を使用する場合
https://abc.co.jp/ipp または https://abc.co.jp/ipp/lp
- ・IP アドレスが「192.168.0.204」でセキュア(SSL)通信印刷機能を使用しない場合
http://192.168.0.204/ipp または http://192.168.0.204/ipp/lp
- ・IP アドレスが「192.168.0.204」でセキュア(SSL)通信印刷機能を使用する場合
https://192.168.0.204/ipp または https://192.168.0.204/ipp/lp



- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を使用する場合は、URL は “https:// ~ ” と指定してください。
“http:// ~ ” と指定すると、セキュア(SSL)通信印刷機能は動作しません。
- 注意 ・セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になる SSL 証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。

4.印刷先のポート名を設定します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンタポート名をご使用ください。

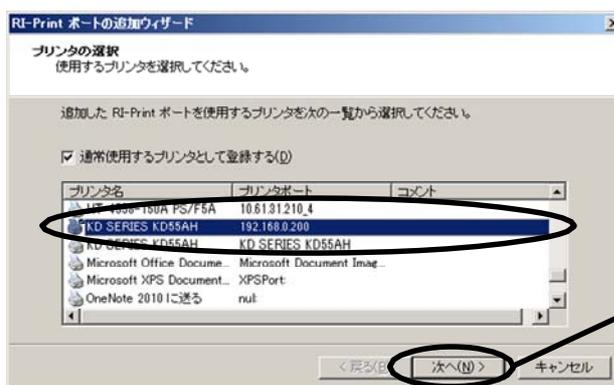
次へ をクリックしてください。

5.設定内容を確認します。



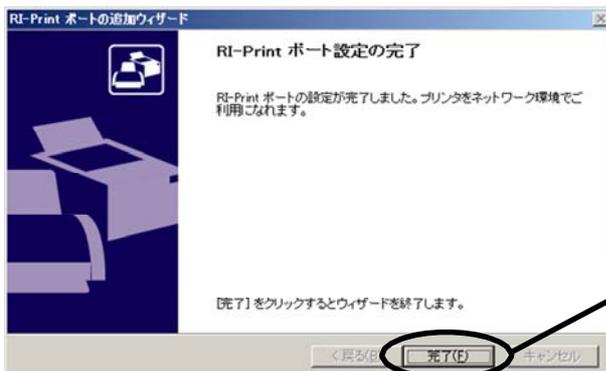
完了 をクリックしてください。

6.使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

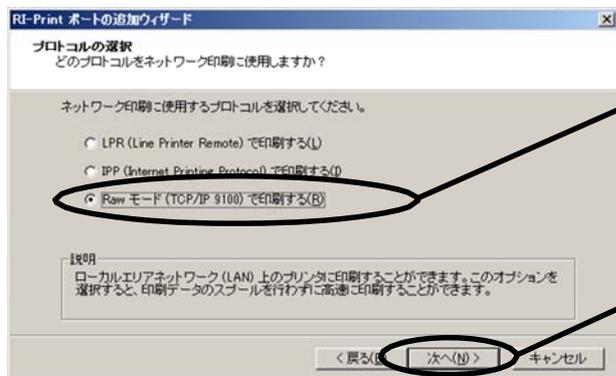
7.ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

RI-Print Raw(TCP/IP 9100) ポートを追加する場合

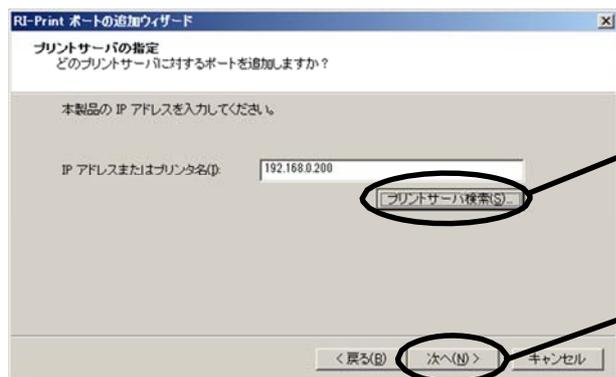
1.Raw モード(TCP/IP 9100)を選択します。



Raw モード(TCP/IP 9100)で印刷する」を選択します。

次へ をクリックしてください。

2.「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバ一覧を表示させ、一覧の中から本製品を選択してください。



「プリントサーバ検索」ボタンをクリックして表示された検索結果から、本製品を選択してください。

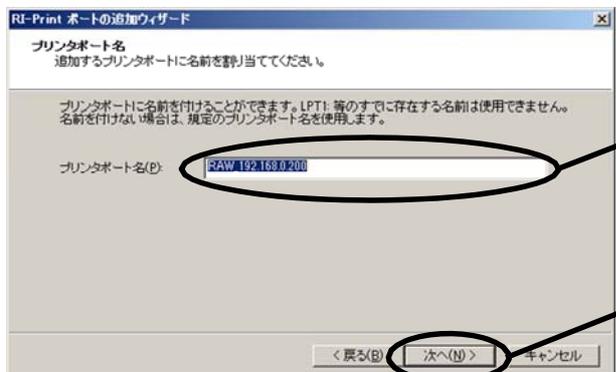
次へ をクリックしてください。



参考

・「次へ」をクリックすると、指定されたプリントサーバが 9100 ポートにアクセス可能か、確認されます。

3.印刷先ポート名を入力します。



特に問題がなければ既定のプリンタポート名(RAW_IP アドレス)をご使用ください。

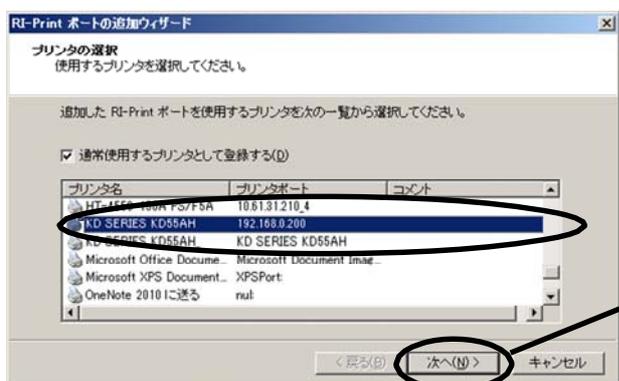
次へ をクリックしてください。

4. 設定内容を確認します。



完了 をクリックしてください。

5. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

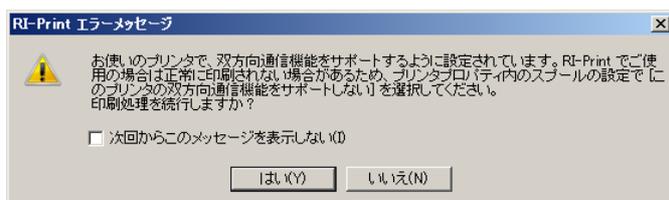
6. ポート設定を完了します。



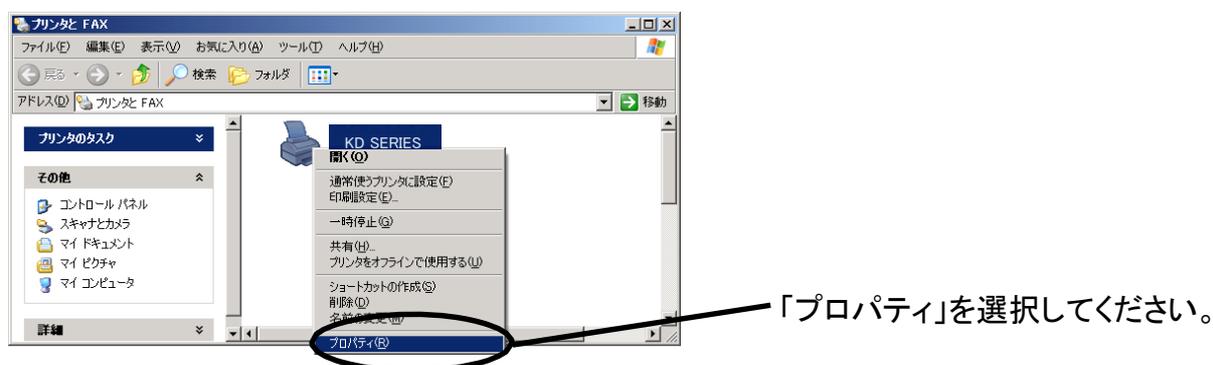
完了 をクリックしてください。

プリンタドライバの設定

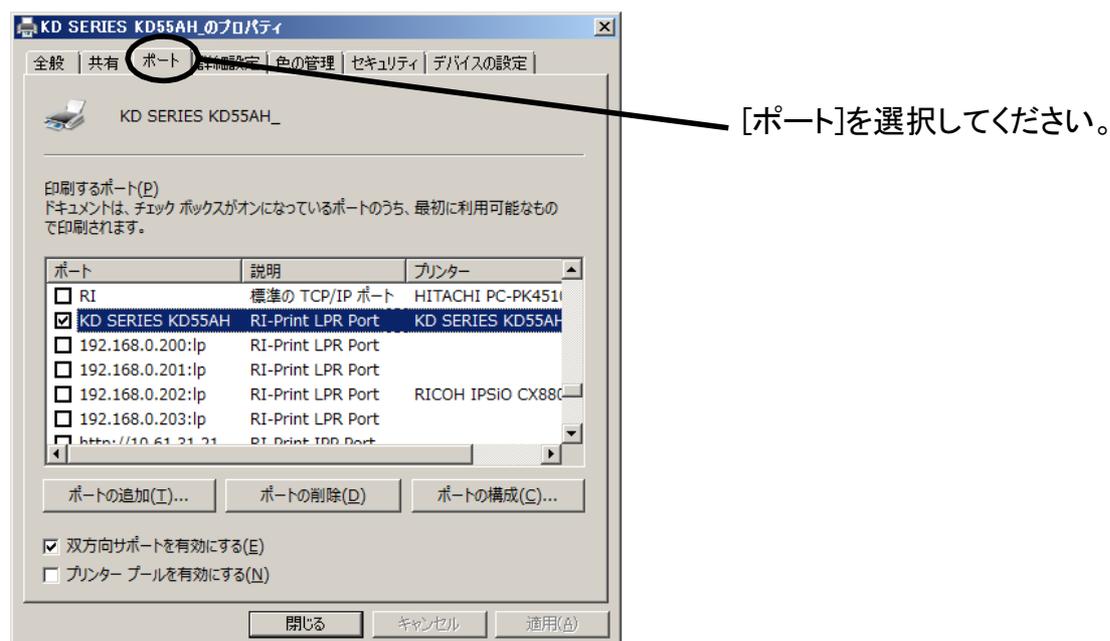
RI-Print からの印刷で、プリンタドライバが「双方向通信機能をサポートする」に設定されている場合、次のエラー画面が表示されることがあります。「いいえ」を選択し、下記の手順でプリンタドライバの設定を変更してください。



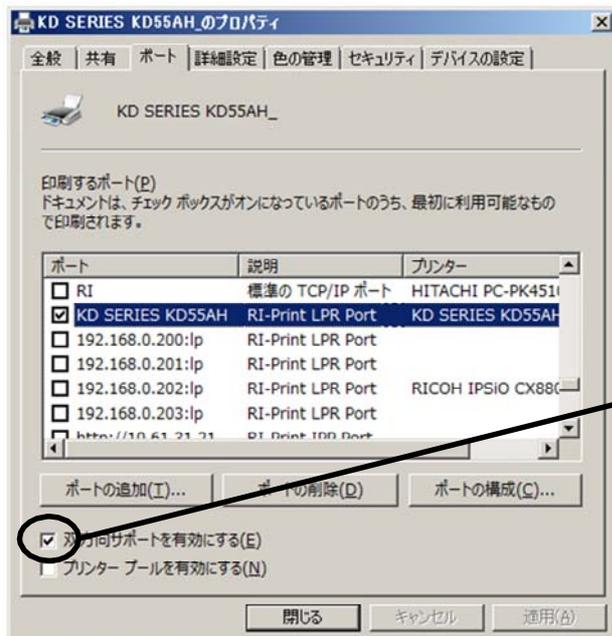
1.「スタート」-「設定」-「プリンタ」で、使用するプリンタのプロパティを開きます。



2.[ポート]を選択します。

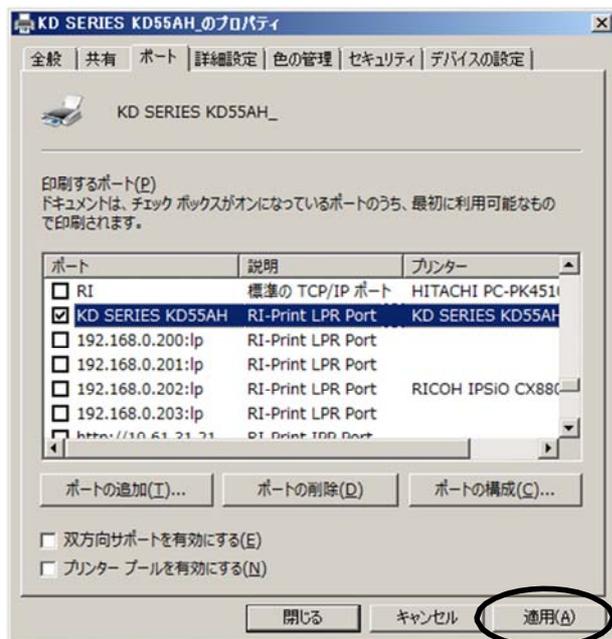


3. 双方向の設定をします。



「双方向サポートを有効にする」のチェックをはずしてください。

4. 設定完了です。



適用 をクリックしてください。

OS 標準の印刷クライアント機能で印刷する

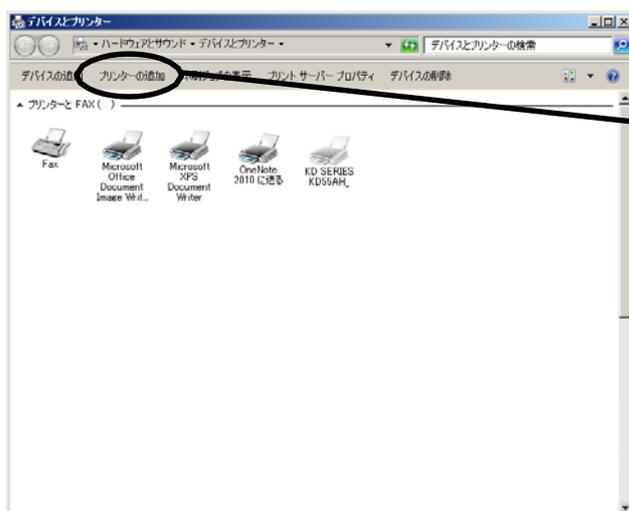
OS 標準の印刷クライアント機能を利用して印刷する方法を説明します。

Standard TCP/IP ポートで印刷する



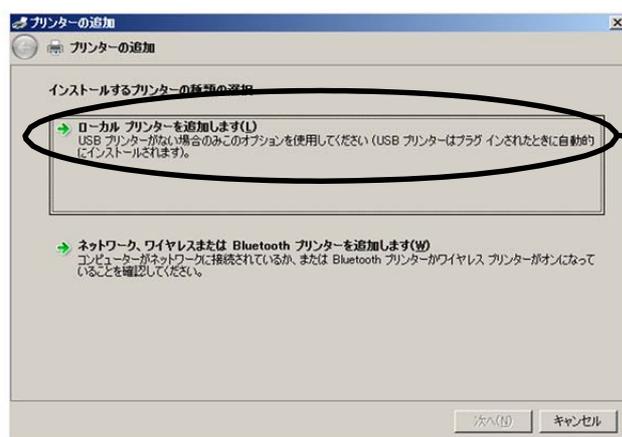
- ・各印刷ポートの制限事項については、「第 5 章 困ったときには」を参照してください。
- ・Standard TCP/IP の LPR モードで印刷を行う場合は、LPR バイトカウントを有効にしないと印刷をしない、印刷が途中で終了する等、異常終了する場合があります。ご注意ください。

1. 「スタート」-「コントロールパネル」-「プリンタ」を開き、「プリンタの追加」を選択します。ください。



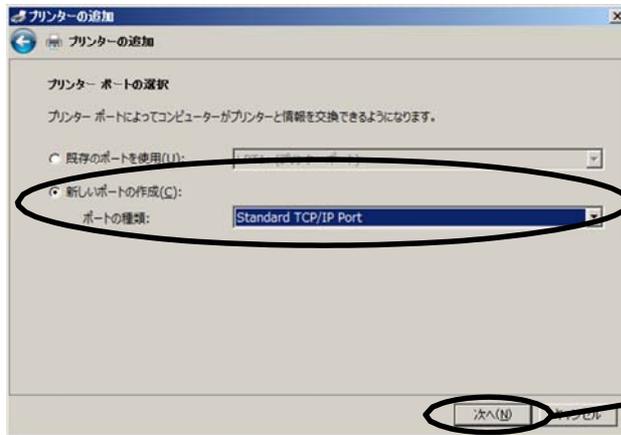
「プリンタの追加」をクリックしてください。

2. 設定するプリンタの種類を選択します。



「ローカルプリンタを追加します」を選択してください。

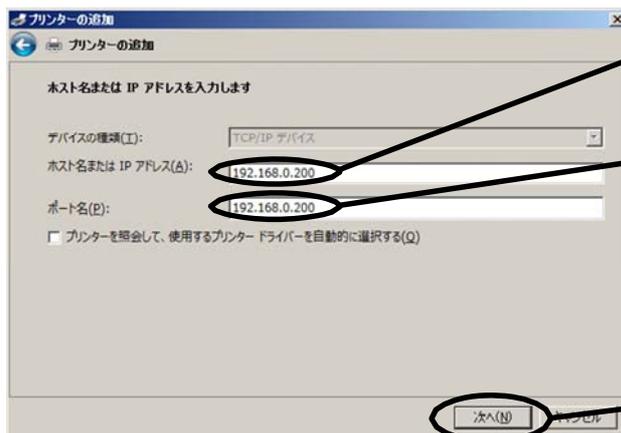
3. プリンタポートを選択します。



「新しいポートの作成」にチェックを入れ、種類は「Standard TCP/IP Port」を選択します。

適用 をクリックしてください。

4. プリンタポートを追加します。

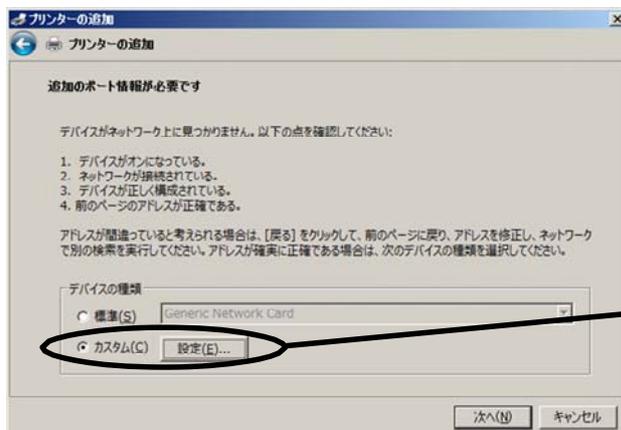


本製品に設定した IP アドレスを入力してください。

名前を付けない場合は、既定値 (xxx.xxx.xxx.xxx) をご使用ください。

次へ をクリックしてください。

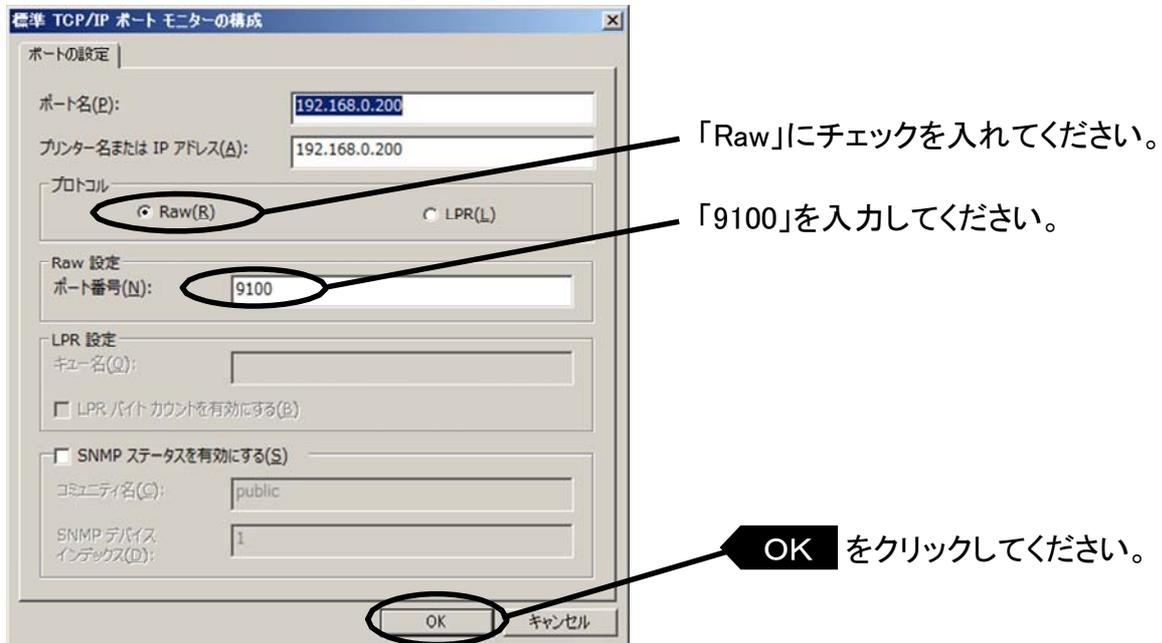
5. デバイスの種類を決定します。



「カスタム」にチェックを入れ、「設定」をクリックしてください。

6.ポート情報を入力します。

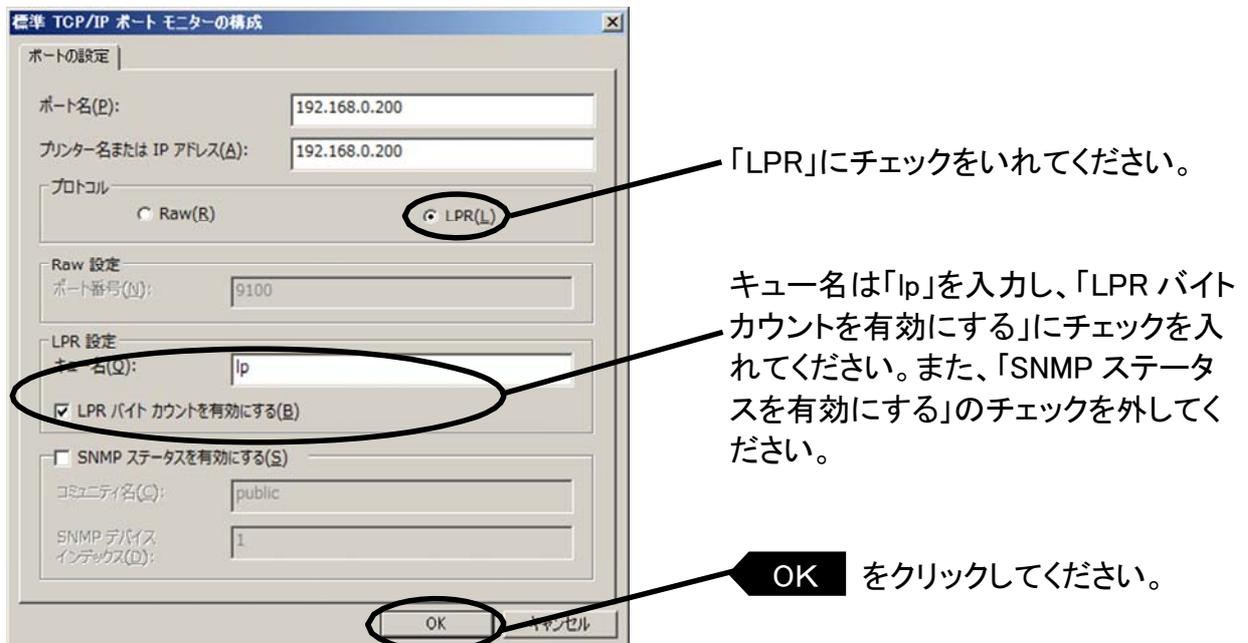
(A) Raw モードで使用する場合



参考

・「OK」をクリックすると「5.」の画面に戻ります。
「次へ」をクリックしてください。

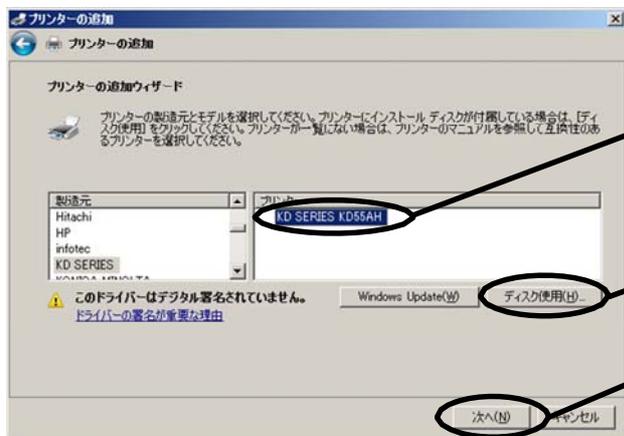
(B) LPR モードで使用する場合



参考

・「OK」をクリックすると「5.」の画面に戻ります。
「次へ」をクリックしてください。

7. プリンタドライバを選択します。

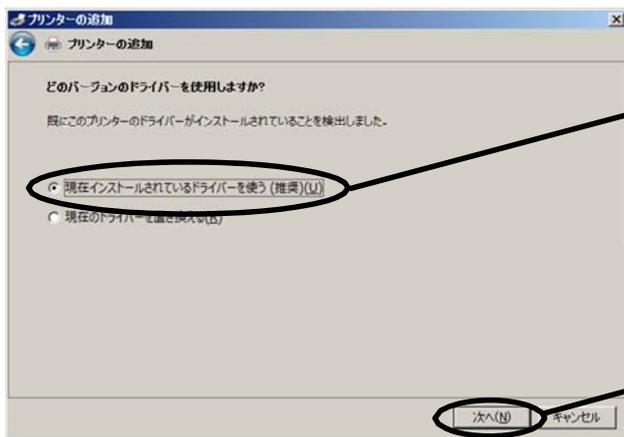


ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

ご使用になるプリンタのドライバが一覧に無い場合は、「ディスクを使用」をクリックし、プリンタドライバを選択してください。

次へ をクリックしてください。

8. プリンタドライバを確認します。



「現在インストールされているドライバーを使う (推奨)」か、「現在のドライバーを置き換える」かを選択してください。

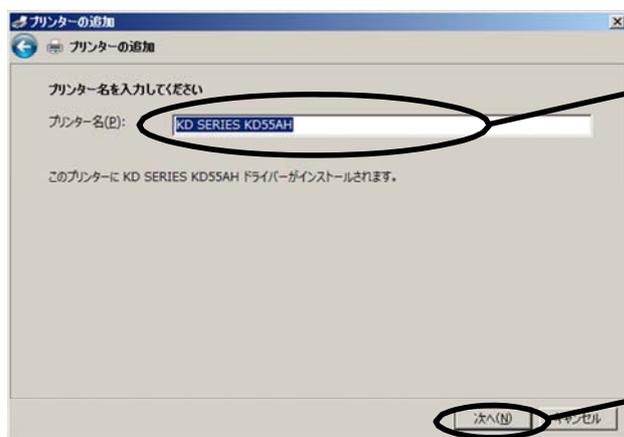
次へ をクリックしてください。



参考

・最新ドライバを別途インストールされた場合は、「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

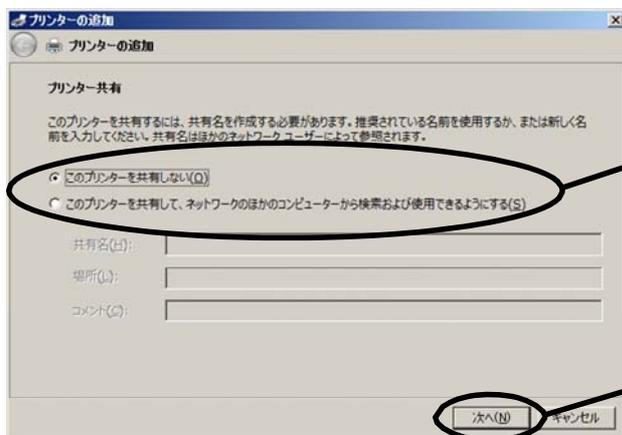
9. プリンタ名を登録します。



プリンタ名の登録を行います。このプリンタを通常使うプリンタと選択してください。

次へ をクリックしてください。

10. プリンタを共有するかを選択します。



「このプリンタを共有しない」か、「このプリンタを共有して、ネットワークのほかのコンピュータから検索および使用できるようにする」かを選択してください

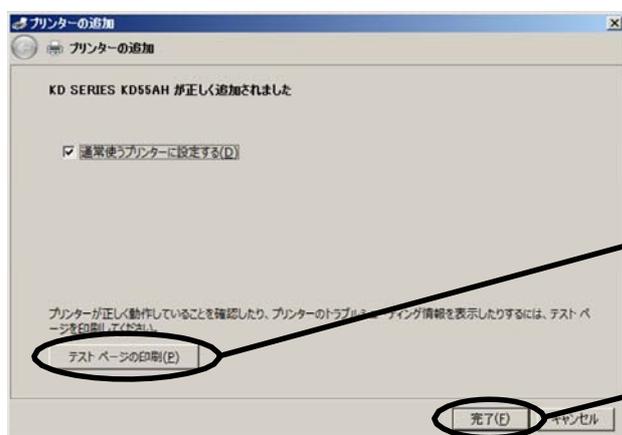
次へ をクリックしてください。



参考

・同じネットワーク内にある他のコンピュータからもこのプリンタをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

11. テストページの印刷を選択します。



「テストページの印刷」を選択してください。テストページの印刷が問題なくできたら、設定は終了です。

完了 をクリックしてください。

12 プリンタのテストページが正常に出力されれば、設定完了です。

第 4 章 設定に関する機能	4-3
RI-Print Manager Start up で設定する	4-3
RI-Print Manager Start up で RI-Print Manager を起動する	4-4
RI-Print Manager で IP アドレスを設定する	4-6
IP アドレス設定	4-6
RI-Print Manager の機能	4-7
RI-Print Manager メニュー構成	4-7
プリンタステータス	4-8
システムステータス	4-8
設定項目一覧表示	4-9
プリントサーバーの設定	4-10
Web ブラウザで設定する	4-11
General の設定	4-12
TCP/IP の設定	4-13
IP フィルタ設定	4-14
セキュリティレベルの設定	4-15
SNMP の設定	4-16
PRINTER の設定	4-17
Another の設定	4-18
SSL の設定	4-19
SSL 証明書作成 証明書情報設定	4-20
SSL 証明書作成 有効期限設定	4-21
SSL 証明書作成 証明書ダウンロード	4-22
プリントサーバー再起動	4-23
工場出荷時設定	4-23
TELNET で設定する	4-24

Web ブラウザ/TELNET 設定項目	4-25
General	4-25
TCP/IP	4-26
SNMP	4-28
PRINTER	4-29
その他の設定 (Another)	4-30
SSL 証明書作成項目	4-30

第4章 設定に関する機能

本章ではRI-Print Manager、Webブラウザ、TELNETを利用して、詳細な設定を行う方法について説明します。

RI-Print Manager Start up で設定する

総合ユーティリティ「RI-Print Manager Start up」は、本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。また、リモートでの再起動や自己診断印刷、プリンタステータスマニタなどの便利な機能をご利用いただくことができます。



注意

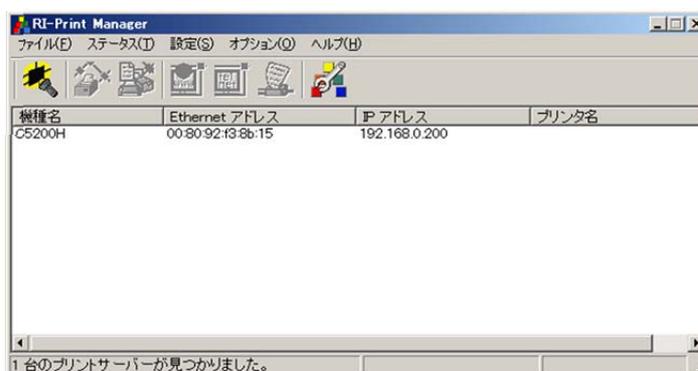
- ・RI-Print Managerをご利用になる場合、ご使用のパソコンにTCP/IPプロトコルがインストールされている必要があります。
- ・ご利用の環境、ご使用の機種により、「RI-Print Manager」に表示される内容が異なります。



起動アイコン



RI-Print Manager Start up 選択画面



RI-Print Manager 画面

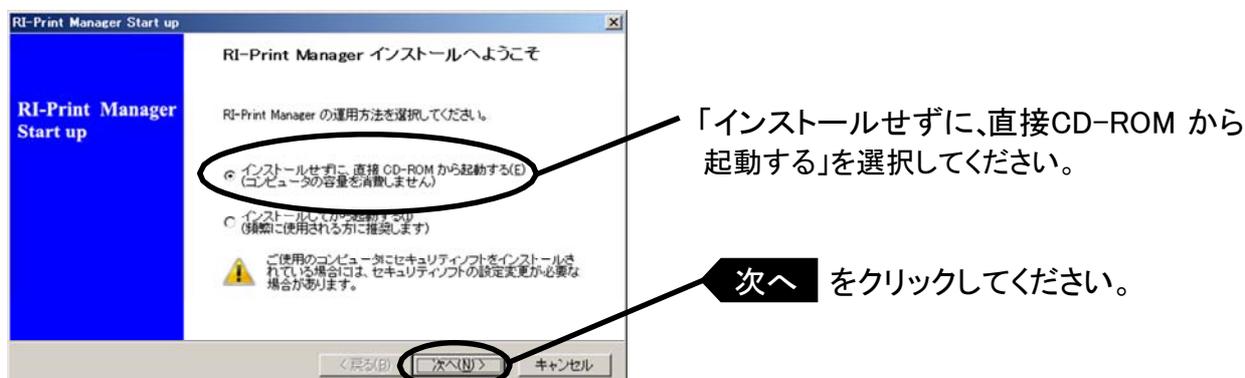
RI-Print Manager Start up で RI-Print Manager を起動する

1. 本製品に付属してしているCD-ROMをPCに挿入し、自動再生又はファイルを開きプログラム(アイコン)をクリックしてください。



起動プログラム(アイコン)

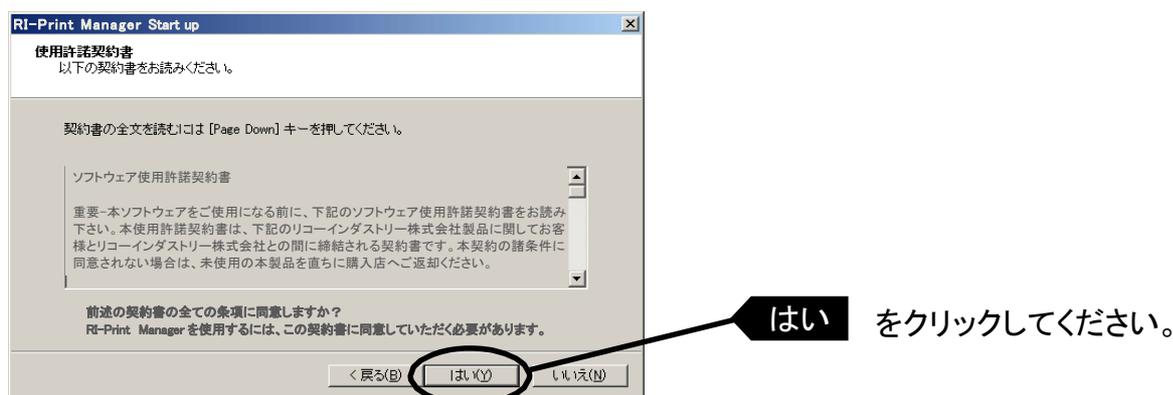
2. 選択画面が表示されます。



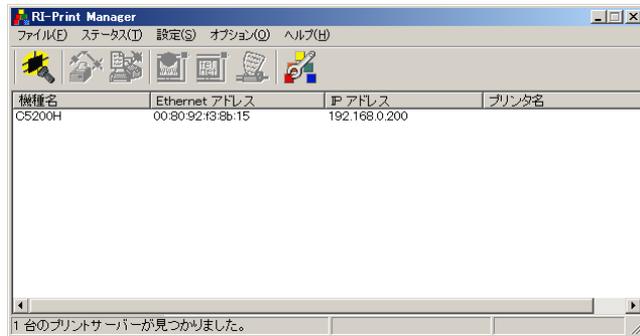
参考

・RI-Print Manager を頻繁に使用される方は、「インストールしてから起動する」を選択して、ご利用のパソコンにインストールすることをお奨めします。

3. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



4. RI-Print Managerが起動します。



RI-Print Manager で IP アドレスを設定する

本製品の設定を行う前に、RI-Print Manager で本製品が検索されることをご確認ください。
本製品が検索されない場合は、「設定」-「IPアドレス設定」でIPアドレスの設定を行ってください。



参考

・ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっていると、本製品を検索できないことがあります。
そのようなときは、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

IP アドレス設定

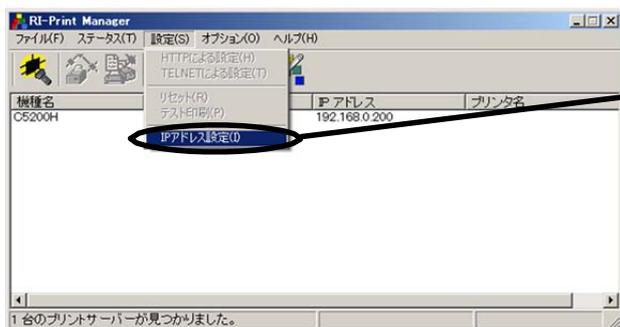
IPアドレスの設定を手動で行います。



参考

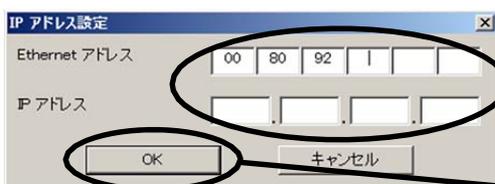
・本設定を行う前に、本製品の Ethernet アドレスをご確認ください。Ethernet アドレスは自己診断印刷結果、または本製品裏面にシール表示で記載されています。
(例: 00:80:92:f3:8b:15)

1.



RI-Print Managerのメニューバーから「設定」-「IP アドレス設定」を選択してIPアドレス設定ツールを起動してください。

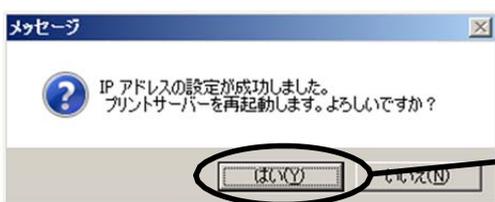
2.



設定する製品の Ethernet アドレスと IP アドレスを入力してください。

OK をクリックしてください。

3.



設定したIP アドレスを有効にするために本製品をリセットします。「はい」をクリックしてください。



注意

再起動処理ができなかった場合は、プリントサーバーの電源をOFF/ON (電源ケーブル抜き差し) してください。

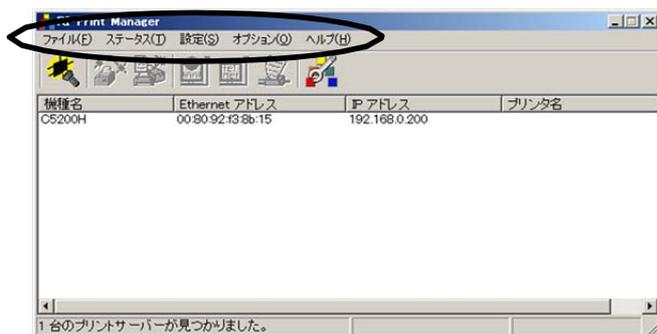
RI-Print Manager の機能

RI-Print Manager メニュー構成



注意

・ご利用の環境によっては、「RI-Print Manager」に表示される内容が異なります。

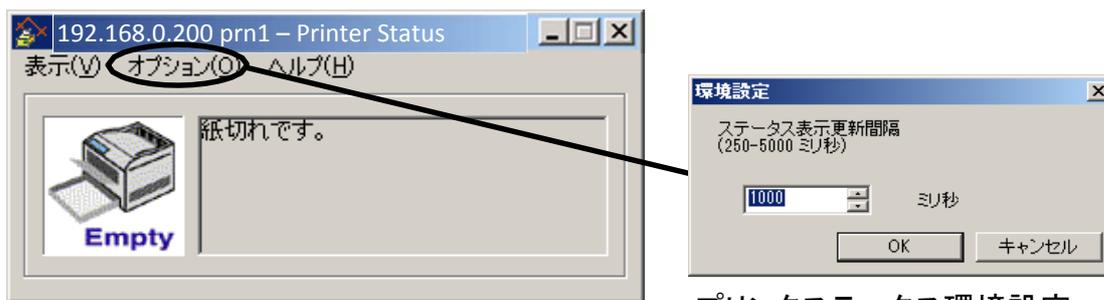


メニュー	項目	説明
ファイル	検索	ネットワーク上の本製品を検索
	アプリケーション終了	RI-Print Manager を終了
ステータス	プリンタステータス	プリンタステータスマニタを表示
	システムステータス	システムステータスマニタを表示
	設定項目一覧表示	本製品の内部設定情報を表示
設定	HTTP による設定	本製品のホームページを起動
	TELNET による設定	TELNET を起動
	リセット	本製品の再起動
	テスト印刷	本製品の自己診断印刷を実行
	IP アドレス設定	IP アドレスの手動設定
オプション	環境設定	RI-Print Manager の環境設定
ヘルプ	バージョン表示	RI-Print Manager のバージョンを表示

プリンタステータス

RI-Print Manager画面にて選択した本製品が接続しているプリンタの状態が、リアルタイムに表示されます。

また、環境設定画面にて、プリンタステータスの更新時間を指定することができます。



プリンタステータス環境設定



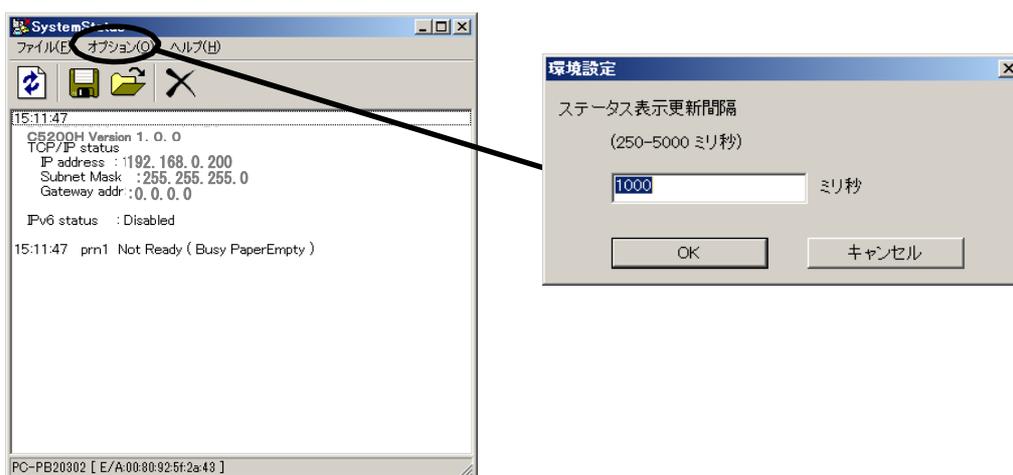
・プリンタの機種によっては、プリンタの状態を正常に取得できない場合があります。

注意

システムステータス

RI-Print Manager画面にて選択した本製品の動作状態がリアルタイムに表示されます。

本製品の動作状態をファイルに保存(ログの登録)し、参照することができます。また、環境設定画面にて、システムステータスの更新時間を指定することができます。



設定項目一覧表示

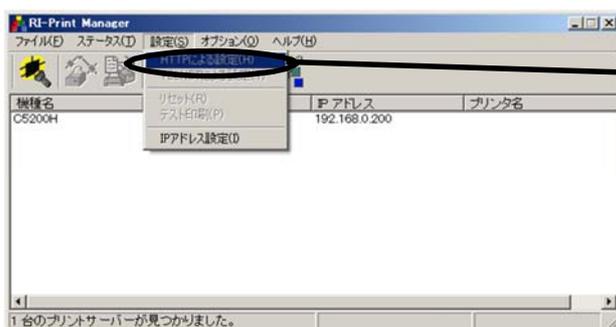
本製品に設定した各項目の設定値が一覧で表示されます。設定内容をファイル出力し、管理することができます。



プリントサーバーの設定

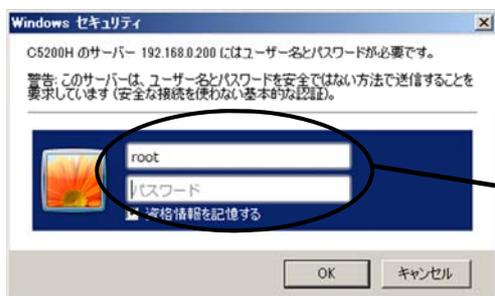
RI-Print Managerの「設定」-「HTTP による設定」で本製品の詳細設定および設定内容の変更を行います。

1.



設定を行う本製品を指定し、RI-Print Managerのメニューバーから「設定」-「HTTP による設定」を選択してください。Web の設定画面が表示します。

2. Web 設定画面



ユーザー名:「root」
パスワード: なし (未入力でエンター)



- ・設定の変更を行う場合はセキュリティ確認の「パスワード入力」画面が表示されます。デフォルトはユーザー名:「root」-パスワード:なし (空エンター) になります。

Web ブラウザで設定する

本製品は HTTP プロトコルを搭載しており、直接 IP アドレスを指定して Web ブラウザから本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。

また、リモートでの再起動や自己診断印刷、プリンタステータスマニタなどの便利な機能をご利用いただくことができます。



注意

- Web ブラウザを利用する場合、本製品の TCP/IP プロトコル設定が有効であり、IP アドレスが設定されている必要があります。
- Web ブラウザは、Netscape Navigator 3.0以降及び Internet Explorer 3.0 以降のバージョンを推奨します。また、ご利用になる Web ブラウザによって多少表示が異なる場合があります。
- 本製品の機種によっては、Web ブラウザに表示される内容が異なります。
- Web ブラウザを利用して設定変更を行った場合は、必ず「プリントサーバー再起動」を実行してください。実行しないと変更した設置情報が本製品に登録されません。
- 部分的に表示しないあるいは遅れる場合は更新ボタンをクリックしてください。
- 本製品に設定された IP アドレスを Web ブラウザに直接入力する。

< 例 >

セキュア(SSL)通信印刷機能が無効の場合 ⇒ http://192.168.0.200

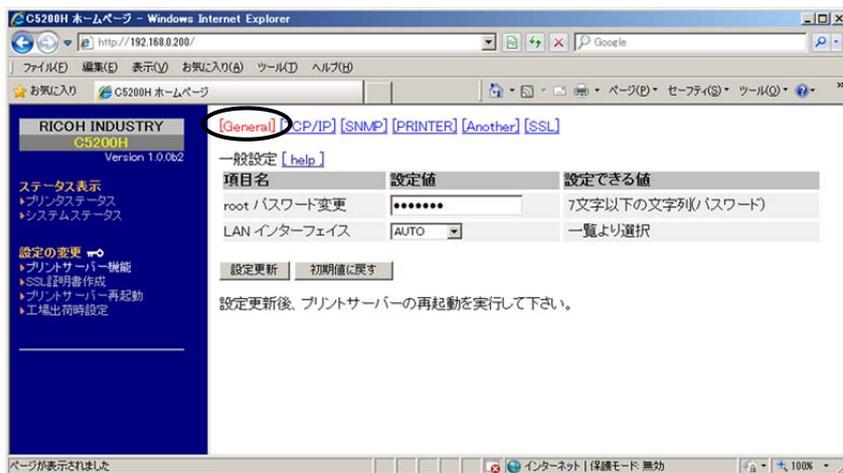
セキュア(SSL)通信印刷機能が有効の場合 ⇒ https://192.168.0.200

IP アドレス直接入力



設定更新後、プリントサーバーの再起動を実行して下さい。

Generalの設定



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
General	root パスワード 変更	本製品の管理者パスワードを ASCII 文字列で設定します。このパスワードは Telnet、Web ページ、設定ツールにて設定変更の認証パスワードとして使用されます。	-
	LAN インタフェース	物理ネットワークの種別を設定します。通常は AUTO で使用してください。本製品の電源投入時に本製品が接続される HUB の LINK ランプが点灯しない場合は、この設定を接続 HUB のネットワーク種別に変じます。設定項目は AUTO/10HALF/10FULL/100HALF/100FULL があります。	AUTO



注意

・初期化ボタンをクリックすると、本製品の設定値を工場出荷値に戻します。

TCP/IP の設定



TCP/IP 設定(続き)

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
TCP/IP 設定	IP アドレス	本製品の IP アドレスを 10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを 10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。 「0.0.0.0」は無効になり、IP アドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	0.0.0.0
	ゲートウェイ	接続ゲートウェイの IP アドレスを 10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	RARP	RARP プロトコルを有効(ENABLE)にします。	DISABLE
	DHCP/BOOTP	DHCP/BOOTP プロトコルを有効(ENABLE)にします。 DHCP と BOOTP を自動認識し、先に応答のあった IP アドレスを自分を自分のアドレスとして採用します。	DISABLE
	IPv6 機能	IPv6 機能の有効・無効を設定します。	DISABLE
	NetworkPnP	NetworkPnP 機能の有効・無効を設定します。	ENABLE

IP Filter 設定

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
IP Filter	動作モード	DENY 又は ALLOW の選択 DENY: フィルタアドレスからの受信を受捨てる。 ALLOW: フィルタアドレスからの受信を受ける。	DENY	
	フィルタ#0 開始アドレス	フィルタ#0 の開始アドレス	0.0.0.0	
	フィルタ#0 終了アドレス	フィルタ#0 の終了アドレス	0.0.0.0	
	~			
	フィルタ#3 開始アドレス	フィルタ#3 の開始アドレス	0.0.0.0	
	フィルタ#3 終了アドレス	フィルタ#3 の終了アドレス	0.0.0.0	

セキュリティレベル設定

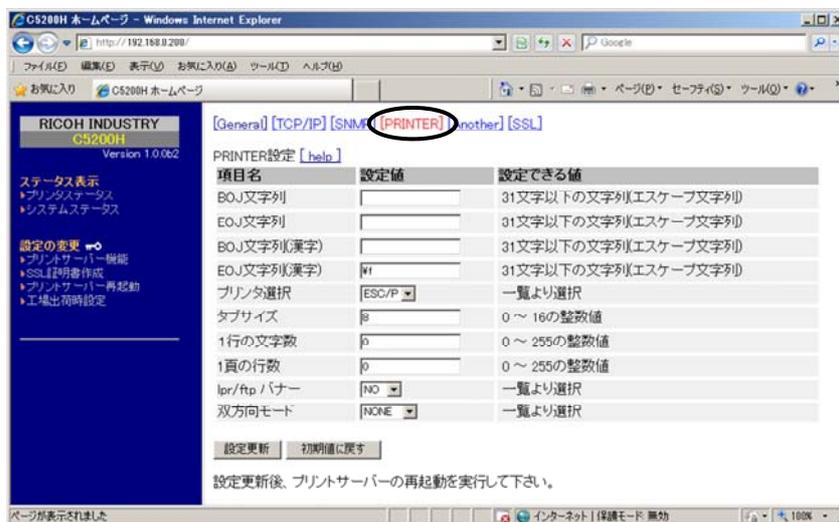
タブ	項目	設定内容	工場出荷設定																																								
セキュリティレベル	セキュリティレベル	CUSTOM/LEVEL1/LEVEL2 の選択 DENY:フィルタアドレスからの受信を受捨てる。 ALLOW: フィルタアドレスからの受信を受ける。	CUSTOM																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>プロトコル</th> <th>CUSTOM (設定変更)</th> <th>LEVEL1</th> <th>LEVEL2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LPR</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>RAW</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IPP</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HTTP</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>HTTPS</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>TELNET</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>FTP</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>SNMP</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Setup Protocol (JCP)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		プロトコル	CUSTOM (設定変更)	LEVEL1	LEVEL2	LPR	○	○	—	RAW	○	○	—	IPP	○	○	○	HTTP	○	○	—	HTTPS	○	○	○	TELNET	○	—	—	FTP	○	—	—	SNMP	○	—	—	Setup Protocol (JCP)	○	○	—
		プロトコル		CUSTOM (設定変更)	LEVEL1	LEVEL2																																					
		LPR		○	○	—																																					
		RAW		○	○	—																																					
		IPP		○	○	○																																					
		HTTP		○	○	—																																					
		HTTPS		○	○	○																																					
		TELNET		○	—	—																																					
		FTP		○	—	—																																					
SNMP	○	—	—																																								
Setup Protocol (JCP)	○	○	—																																								

SNMPの設定



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
SNMP	認証コミュニティ名	SNMP の認証コミュニティ名を 15 文字以内で設定します。このコミュニティ名は SNMP Set Request を受け付けるときに認証されます。	—	
	Trap コミュニティ名	SNMP のトラップコミュニティを 15 文字以内で設定します。このコミュニティ名は本製品がトラップを発行するときに使用されます。	public	
	Trap 通知先アドレス	SNMPトラップの送信先 IP アドレスを設定します。設定値は、10 進数 4 桁で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になり、いかなる場合でもトラップは発行されなくなります。	0.0.0.0	
	MIB-II 設定項目	SysContact	MIB-II オブジェクトの SysContact を 31 文字以内で設定します。通常は管理者のメールアドレスを設定しておきます。	なし
		SysName	MIB-II オブジェクトの SysName を 31 文字以内で設定します。通常は本製品のホスト名またはドメイン名を設定しておきます。	なし
		SysLocation	MIB-II オブジェクトの SysLocation を 31 文字以内で設定します。通常は本製品のある場所を設定しておきます。	なし
		DefaultTTL	MIB-II オブジェクトの DefaultTTL を 0~255 で設定します。この値は IP パケットの最大生存時間を意味しています。通常はデフォルト値の 255 から変更する必要はありません。	255
Enable Authen Trap	MIB-II オブジェクトの EnableAuthenTrap を許可(1)/禁止(2)で設定します。許可に設定すると、SNMP でコミュニティ違反が発生した時、SNMPトラップが「Trap 通知先アドレス」で設定した IP アドレスに向けて発信されます。	2		

PRINTERの設定

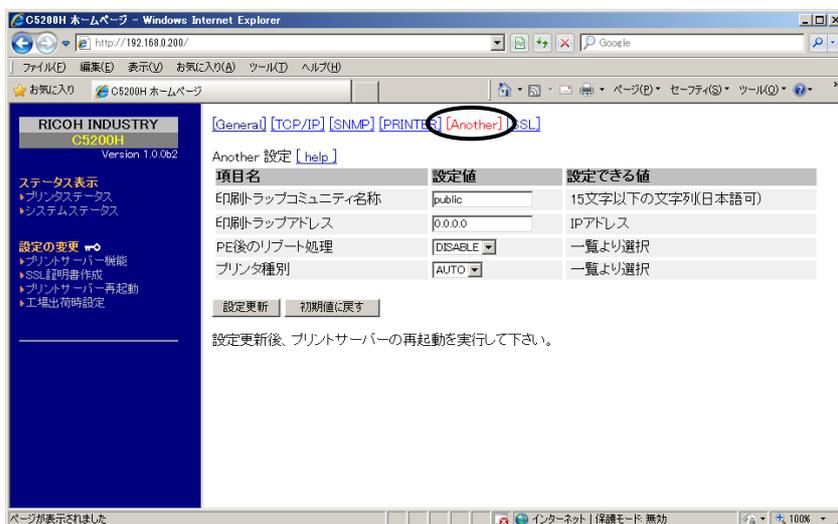


タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
PRINTER	無変換出力設定	BOJ 文字列	直接出力ポート(lp ポート)に出力する前に、プリンタに送出する文字列(最大 31 文字)を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
		EOJ 文字列	直接出力ポート(lp ポート)に出力した後に、プリンタに送出する文字列(最大 31 文字)を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
	漢字変換出力設定	BOJ 文字列	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力する前に、プリンタに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
		EOJ 文字列	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力した後に、プリンタに送出する文字列(最大 31 文字)を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	¥f
		プリンタ選択	プリンタのエミュレーション(PDL)に応じた設定をします。漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc)に出力する際に、プリンタのエミュレーションに応じたコードに変換します。	ESC/P
		タブサイズ	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力する時のタブコード(0x09)を半角スペース(0x20)に変換する文字数を設定します。この文字数を 0 にすると、タブ変換処理は行われません。設定値は、0~16 です。	8
1 行の文字数	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力する時の 1 行の文字数を設定します。この文字数を 0 にすると 1 行の文字数制御を行いません。設定値は 0~255 です。	0		
1 頁の行数	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力する時の 1 頁の行数を設定します。この行数を 0 にするとページの行制御を行いません。設定値は 0~255 です。	0		

PRINTERの設定 (続き)

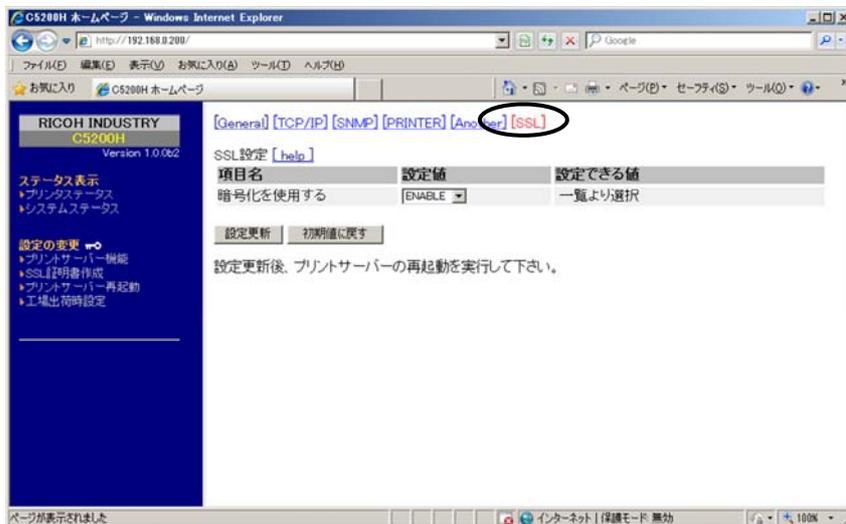
タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
PRINTER	バナー	lpr/ftp バナー LPR や FTP で印字する場合にバナーページを出力するかどうか設定します。この設定は、TCP/IP プロトコルでの印刷に適用します。 NO: 出力しない YES: 出力する	NO
	パラレルポート詳細設定	双方向モード 双方向通信方法を設定します。設定値は NONE、NIBBLE、AUTO、SPP です。通常は"NONE"に設定してください。	NONE

Another 設定



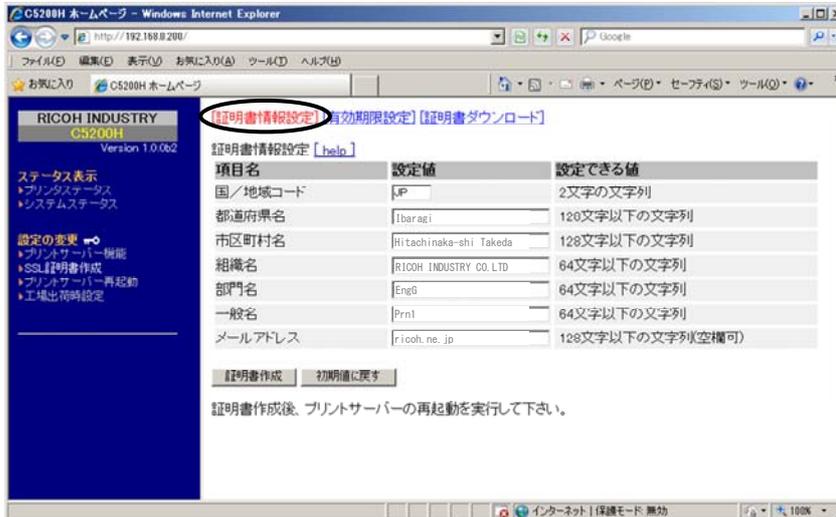
タブ	項目名	設定内容	工場出荷設定
Another	印刷トラップコミュニティ名称	印刷完了時に SNMP で Trap 通知する際に使用するコミュニティ名称を指定します。設定値は 15 文字以内の文字列です。	public
	印刷トラップアドレス	印刷完了時に SNMP で Trap 通知する通知先の IP アドレスを指定します。	0.0.0.0
	PE 後のリポート処理	印刷トラップアドレス(Print Trap Address)が設定されている状態で LPR 印刷中に用紙なしが発生した時に、本製品をリポートする/しないを設定します。本機能を ENABLE に設定すると、用紙なし発生後の継続印刷で受信済みデータを削除し、掃き出し印刷を抑制します。	DISABLE
	プリンタ種別	プリンタ種別によりプリンタステータス状態表示(応答)を定義します。 AUTO: プリンタ接続時にプリンタデバイス ID を取得し自動で判断 Serial: シリアルプリンタ Line : ラインプリンタ ※デバイス ID 応答を正しく行わないプリンタは種別に合わせて Serial 又は Line に設定してください。	AUTO

SSL の設定



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
SSL	暗号化を使用する	SSL の動作を 禁止/許可 します	ENABLE

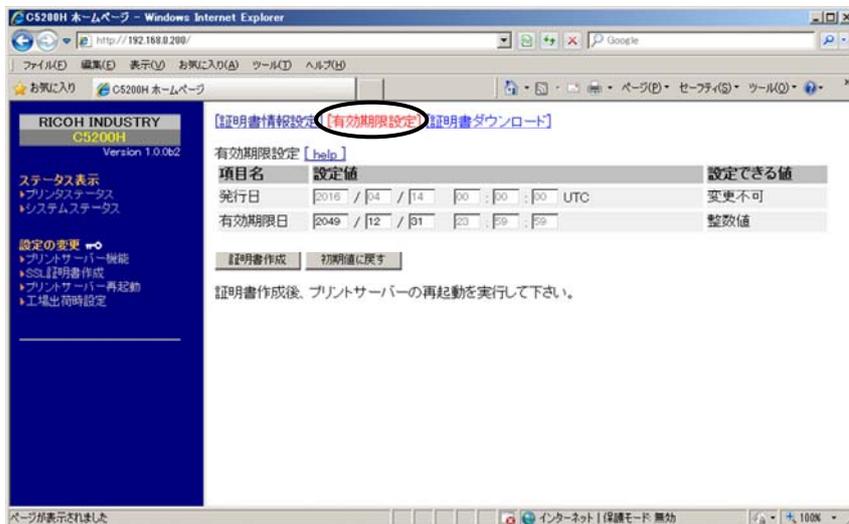
SSL 証明書作成 証明書情報設定



項目名	説明
国／地域コード	国／地域コードを入力します。
都道府県名	都道府県を入力します。
市区町村名	市区町村を入力します。
組織名	組織を入力します。
部門名	部門を入力します。
一般名	一般名を入力します。
メールアドレス	メールアドレスを入力します。

※初期化後、SSL 機能を使用するためには証明書を作成する必要があります。

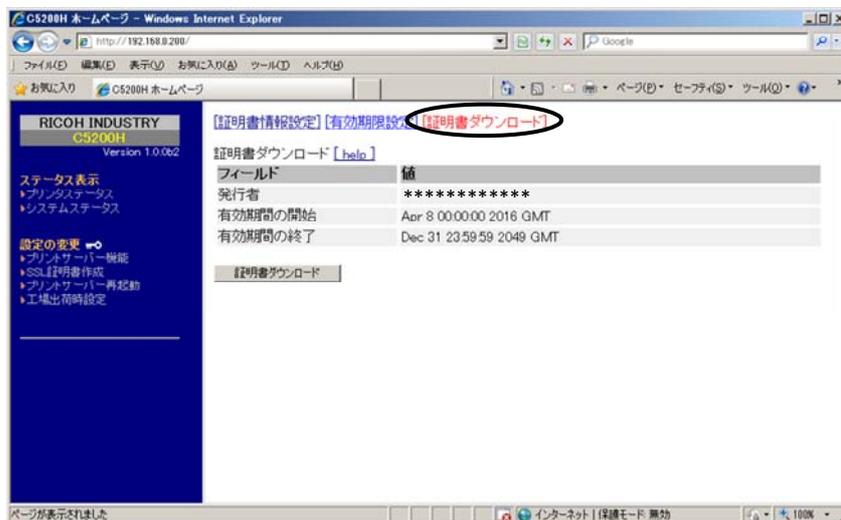
SSL 証明書作成 有効期限設定



項目名	説明
発行日	固定で変更できません。
有効期限日	有効期限日を設定します。

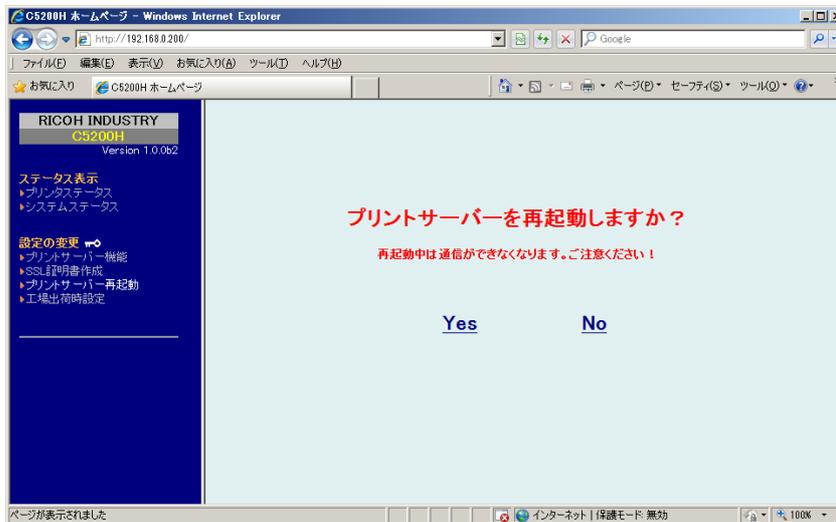
※初期化後、SSL 機能を使用するためには証明書を作成する必要があります。

SSL 証明書作成 証明書ダウンロード

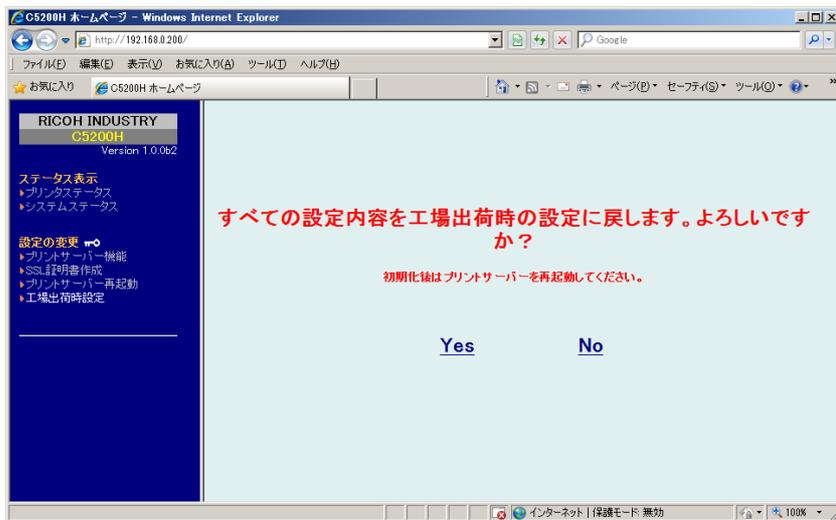


項目名	説明
証明書ダウンロード	証明書作成後は、[証明書ダウンロード] のボタン押下で作成した証明書をダウンロードすることができます。 Windows Vista 以降等の OS では、SSL を使用した IPP 印刷のために証明書をインストールする必要があります。

プリントサーバー再起動



工場出荷時設定



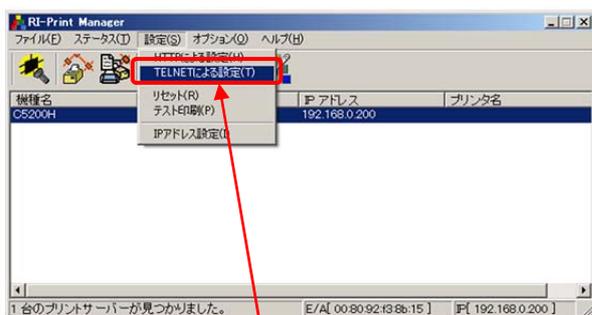
TELNET で設定する

本製品はTELNETプロトコルを搭載していますので、UNIXマシンまたは、パソコンのTCP/IP ソフトに付属の TELNET を利用して本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。



- ・TELNETを利用する場合は、IPアドレスが設定されている必要があります。
- 注意 ・TELNETで設定を行うにはrootユーザでログインする必要があります。
- ・Windows OS はあらかじめ機能追加で TELNET を有効にする必要があります。

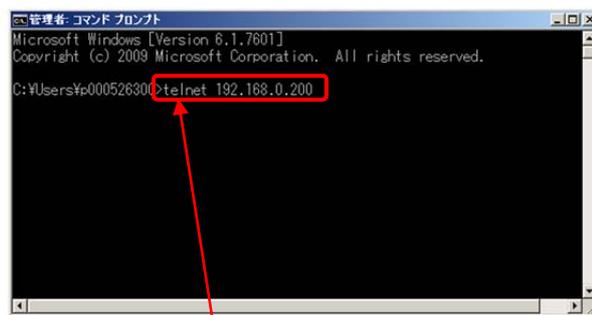
<RI-Print Manager からの起動>



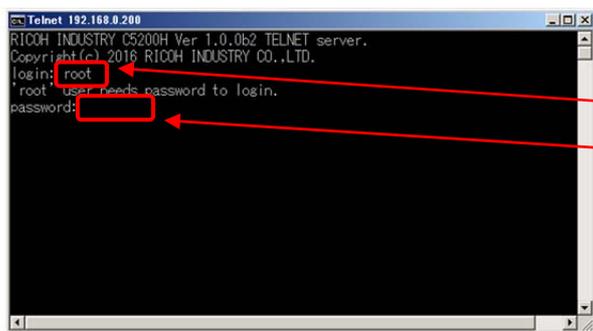
TELNET による設定をクリックします



<コマンドライン(プロンプト)からの起動>

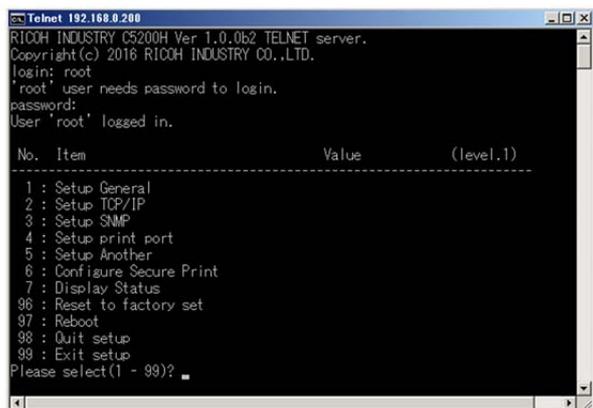


telnet Δ "IP アドレス" を入力し enter



Login 名 :root を入力して enter

Password は未入力です enter



Web ブラウザ/TELNET 設定項目

General

Item		設定内容	工場出荷設定
Web ブラウザ	TELNET		
一般設定 / Configure General			
General	Root パスワード変更	root password 本製品の管理パスワードを ASCII 文字列 (7 文字以内) で設定します。このパスワードは RI-Print Manager、TELNET、Web で設定を行う際の認証パスワードとして使用します。	なし
	LAN インターフェース	LAN interface 物理ネットワークの種別を設定します。通常は AUTO で使用してください。本製品の電源投入時に本製品が接続される HUB の LINK ランプが点灯しない場合は、この設定を接続 HUB のネットワーク種別に変更します。設定項目は AUTO/10HALF/10FULL/100HALF/100FULL があります。	AUTO

TCP/IP

項目		設定内容	工場出荷設定
Web ブラウザ	TELNET		
TCP/IP 設定 / Configure TCP/IP			
IP アドレス	IP address	本製品の IP アドレスを 10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
サブネットマスク	Subnet mask	本製品のサブネットマスクを 10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」は無効になり、IP アドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	0.0.0.0
ゲートウェイ	Gateway address	本製品のデフォルトゲートウェイを 10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」は無効になります。	0.0.0.0
RARP	RARP protocol	RARP プロトコルを有効(ENABLE)にします。本設定を ENABLE にすると起動時に RARP サーバより IP アドレスを設定します。本製品を RARP によって設定するには、サブネットワーク内に適切に設定された RARP サーバが稼動していなければなりません。	DISABLE
DHCP/BOOTP	DHCP/BOOTP protocol	DHCP/BOOTP プロトコルを有効(ENABLE)にします。DHCP/BOOTP は、起動時に DHCP サーバまたは BOOTP サーバから IP アドレスの取得を行うプロトコルです。本製品の IP アドレスを DHCP/BOOTP によって設定するには、サブネットワーク内に適切に設定された DHCP/BOOTP サーバが稼動していなければなりません。本設定を有効(ENABLE)にすると、DHCP と BOOTP を自動認識し、先に応答のあった IP アドレスを自分のアドレスとして採用します。	DISABLE
IPv6 機能	IPv6 Function	IPv6 を有効(ENABLE)にします。IPv6 とは、ホストアドレスを表すためのフィールドを拡大し、従来の TCP/IP で問題となっていた部分を修正、機能追加をした、新しいプロトコル形態です。	DISABLE
Network PnP 機能	Network PnP Enable	Network PnP 機能を有効(ENABLE)にします。Network PnP とは、自動的にネットワーク接続を検知する機能で、本製品をネットワークに接続すると「マイネットワーク」内に本製品のアイコンが一覧表示されます。表示されたアイコンをダブルクリックすると、本製品の Web ページが表示され、設定の変更やステータス確認ができます。	ENABLE
<TELNET のみ設定可能>	TCP#9100 Bi-Directional mode	TCP#9100 Bi-Directional mode を有効(ENABLE)にします。	DISABLE

TCP/IP(続き)

項目		設定内容	工場出荷設定
Web ブラウザ	TELNET		
IP フィルタ設定 / IP Filter Config			
IP フィルタ動作設定	Filter Mode	IP フィルタの動作を設定します。設定には「allow」と「deny」があり、「allow」にすると設定した IP アドレス範囲からのみデータを受けとります。「deny」にすると設定した IP アドレス範囲からのデータを受けとりません。	DENY
フィルタ #0-3 開始/終了アドレス	Filter #0-3 Start/End address	IP フィルタの範囲を設定します。フィルタしたい IP アドレスの範囲は4組まで設定できます。設定が不要な場合はアドレス範囲を「0.0.0.0」から「0.0.0.0」にしてください。	0.0.0.0
セキュリティレベル設定			
TCP/IP セキュリティレベル	Security Configuration	セキュリティレベルを設定します。 レベルの設定により、各プロトコルの有効/無効を設定します。 なお、本項目を CUSTOM に設定すると、各プロトコル毎での有効/無効の設定が可能になります。 ただし、SETUP Protocol、TELNET、HTTP、HTTPS の4項目全てを無効にすると本製品の設定変更ができなくなるため、エラー表示と設定の見直しを要求します。 また、セキュリティレベルが level1、level2 になっている場合は個々のプロトコルを手動で設定できません。 なお、本設定が CUSTOM 以外の場合は、TELNET からの変更はできません。TELNET から本設定を変更する場合は、セキュリティレベルを CUSTOM に設定してください。	Level1

SNMP

項目		設定内容	工場出荷設定
Web ブラウザ	TELNET		
SNMP 設定 / Cofigure SNMP			
認証 コミュニティ名	Authentic community	SNMP の認証コミュニティ名を設定します。 このコミュニティ名は SNMP Set Request を受付ける ときに承認されます。	なし
Trap コミュニティ名	Trap community	SNMP のトラップコミュニティを設定します。 このコミュニティ名は本製品がトラップを発行する ときに使用されます。	public
Trap 通知先 アドレス	Trap address	SNMP トラップの送信先 IP アドレスを設定します。 設定値は、10 進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定し ます。「0.0.0.0」を設定すると本項目は無効になり、 いかなる場合でもトラップは発行されなくなります。	0.0.0.0
SysContact	SysContact	SysContact を設定します。通常は管理者のメール アドレスを設定します。	なし
SysName	SysName	SysName を設定します。通常は本製品のホスト名 またはドメイン名を設定します。	なし
SysLocation	SysLocation	SysLocation を設定します。通常は本製品の設置 されている場所を設定します。	なし
Default TTL	Default TTL	Default TTL を 0~255 で設定します。この値は IP パケットの最大生存時間を意味しています。 通常は、本製品のデフォルト時間を示します。 通常は本製品のデフォルト値 255 から変更する 必要はありません	255
Enable AuthenTrap	Enable AuthenTrap	Enable AuthenTrap を許可(1)/禁止(2)で設定します。 この設定を許可(1)にすると、SNMP でコミュニティ 違反が発生した場合、SNMP トラップが「Trap 通知先アドレス」で設定した IP アドレスに向けて 発信されます。	2

PRINTER

項目		設定内容	工場出荷設定
Web ブラウザ	TELNET		
PRINTER 設定 / Configure Printer Port			
BOJ 文字列	BOJ string	直接出力ポート(lp ポート)に出力する前に、プリンタに送出する文字列(最大 31 文字)を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
EOJ 文字列	EOJ string	直接出力ポート(lp ポート)に出力した後に、プリンタに送出する文字列(最大 31 文字)を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
BOJ 文字列 (漢字)	BOJ string (KANJI)	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc ポート)に出力する前に、プリンタに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
EOJ 文字列 (漢字)	EOJ string (KANJI)	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc ポート)に出力する後に、プリンタに送出する文字列(最大 31 文字)を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	¥
PRINTER プリンタ選択	Printer type	プリンタのエミュレーション(PDL)に応じた設定をします。漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc)に出力する際に、プリンタのエミュレーションに応じたコードに変換します。	ESC/P
タブサイズ (char.)	TAB Size (char.)	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc)に出力する時のタブコード(0x09)を半角スペース(0x20)に変換する文字数を設定します。この文字数を 0 にすると、タブ変換処理は行われません。設定値は、0~16 です。	8
1 行の文字数 (char.)	Page Width (char.)	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc)に出力する時の 1 行の文字数を設定します。この文字数を 0 にすると行の文字数制御を行いません。設定値は、0~255 です。	0
1 ページの 行数(line)	Page Length (line)	漢字フィルタ経由出力ポート(sjis/euc)に出力する時の 1 頁の行数を設定します。この行数を 0 にするとページの行制御を行いません。設定値は、0~255 です。	0
lpr/ftp バナー	lpr/ftp banner	FTP または LPD 印刷時のバナーページ印刷を有効(YES)にします。	NO
双方向モード	Print port mode	双方向通信方法を設定します。設定値は NONE,NIBBLE,BYTE,ECP,ECP(RLE),AUTO です。通常は"NONE"に設定してください。	NO

その他の設定 (Another)

項目		設定内容	工場出荷設定
Web ブラウザ	TELNET		
その他の設定 / Cofigure Another			
印刷トラップ コミュニティ 名称	Print Trap community	印刷完了時に SNMP で Trap を通知する際に使用する コミュニティ名称を指定します。設定値は 16 文字以内の 文字列です。	public
印刷トラップ アドレス	Print Trap Address	印刷完了時に SNMP で Trap を通知する通知先 IP アド レスを指定します。	0.0.0.0
PE 後の リポート処理	PE/Reboot	印刷トラップアドレス(Print Trap Address)が設定されて いる状態で、LPR 印刷中に用紙なしが発生した時に、本 製品をリポートする/しないを設定します。 本機能を ENABLE に設定すると、用紙なし発生後の 継続印刷で受信済みデータを削除し、掃き出し印刷を 抑制します。	DISABLE
プリンタ種別	Printer Class	プリンタ種別によりプリンタステータス状態表示(応答)を定義 します。 AUTO: プリンタ接続時にプリンタデバイス ID を 取得し自動で判断 Serial: シリアルプリンタ Line: ラインプリンタ ※デバイス ID 応答を正しく行わないプリンタは種別に 合わせて Serial 又は Line に設定してください。	AUTO

SSL 証明書作成項目

項目		設定内容	工場出荷設定	
Web ブラウザ	TELNET			
SSL 証明書 情報 報告 設定 有効	証 明 書 情 報 設 定	Web のみ 設定可能	国/地域コード(二文字の文字列)を設定します。 (例)日本-JP、米国-US	なし
	国/地域コード		都道府県を設定します。 (例) Ibaragi	なし
	都道府県名		市区町村を設定します。 (例) Hitachinaka-shi Takeda	なし
	市区町村名		組織名を設定します。 (例) RICOH INDUSTRY CO.,LTD.	なし
	組織名		部門名を設定します。(例) Kikaku	なし
	部門名		任意の名称を設定します。(例) C5200H	なし
	一般名		E-mail アドレスを設定します。 (本項目は空白でも設定可能です。)	なし
	メールアドレス		PC から現在時刻を取得した協定世界時(UTC)で 表示します。本設定は固定で変更はできません。	現在日時
	発効日	証明書の有効期限日を設定します。	2049/12/31 23:59:59	
有効 期限				



・本設定項目は Web ブラウザ画面からのみ設定することができます。

注意

第5章 困ったときには	5-2
使用上の注意事項および制限事項について	5-2
トラブルシューティング	5-5

第5章 困ったときには

使用上の注意事項および制限事項について

本製品を使用する上で以下の注意事項および制限事項があります。問題発生時に合せて確認してください。

- (1) 本製品をご使用の際は、各プリンタの取扱説明書を参照し、プリンタ側の設定を下記通り設定するようにしてください。
 - 受信バッファ(同期印刷): 無効(する)
 - TOF(用紙先頭)位置時の改頁コード: 無効
- (2) ご使用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていてファイアウォール機能が有効になっている、または、Windows OSでファイアウォール機能が有効になっていると、ユーティリティの検索機能で本製品を検索できません。ユーティリティの検索機能をご使用する際は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。
- (3) 本製品のご使用にあたっては、各印刷ポートには次ページの制限事項があります。業務形態にあった印刷ポートをご使用頂くようお願いします。

【RI-Print の印刷ポート】

- ・プリンタの状態監視を行っているため、複数 JOB 連続印刷時、印刷 JOB と印刷 JOB の間に一時停止する場合があります。
- ・プリンタエラー(通信エラー以外)状態で放置した場合、エラーメッセージが表示(*1)されず。エラーが回復した場合、または「再試行」を選択してエラー回復させた場合、続きのデータが送信されて継続印刷をします。「キャンセル」を選択した場合、スプール上に仕掛かっている当該 JOB を削除します。ただし、プリントサーバーで受信済みのデータは残っているため、次の JOB を印刷すると文字化け等が発生します。「キャンセル」を選択する場合は、必ずプリンタの電源 OFF/ON を行ってください。
- ・通信エラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。エラーを回復させて「再試行」を選択すると、スプール上に仕掛かっている当該 JOB の先頭からデータが再送されて継続印刷を行います。ただし、プリンタの電源断以外による通信エラーの場合、プリントサーバーに受信済みのデータが残っているため、次の JOB を印刷すると文字化け等が発生します。「キャンセル」を選択する場合は、スプール上に仕掛かっている当該 JOB を削除し、必ずプリンタの電源 OFF/ON を行ってください。
- ・RI-Print の RAW ポートを使用する場合は、セキュリティソフトウェアが常駐している、または Windows OS でファイアウォール機能が有効になっていると、プリンタエラー状態で印刷 JOB を送信した後、通信エラーが発生し、次の印刷 JOB を送信できなくなる場合があります。

(*1) 印刷ポートにより、初期値が異なります。

LPR ポート/RAW ポート:15 分、IPP ポート:3 分

【Windows 標準の印刷ポート】

OS 標準ポートでは以下の制限事項があります。

① Standard TCP/IP LPRポート

- ・LPR バイトカウントを有効にしないと印刷が異常終了する場合があります。必ず LPR バイトカウントを有効にしてください。また、印刷データサイズが大きい場合、LPR バイトカウント処理を行うため、スプーリングに時間を要することがあります。
- ・プリンタエラー状態で放置した場合、当該 JOB の先頭頁からリトライされるため、重複印刷することがあります。
- ・複数JOBを連続印刷した場合、途中のJOBが印刷終了してからしばらく印刷が停止(最大 4 分)した後に印刷を再開することがあります。

② Standard TCP/IP RAWポート

- ・データサイズをカウントしていないため、印刷データが抜ける場合があります。
- ・印刷データサイズが小さい場合、プリンタエラー状態で印刷 JOBを送信すると JOB が消えることがあります。

③ LPR Port(UNIX印刷サービス)

- ・プリンタエラー状態で放置した場合、当該 JOBの先頭頁からリトライされるため、重複印刷することがあります。

(4)セキュア(SSL)通信印刷機能を使用する場合、以下の点にご注意ください。

- ・セキュア(SSL)通信印刷機能は、印刷データを暗号化するためデータ量が増えます。そのためデータ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下します。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能に対応するプロトコルはIPP、HTTPSです。

トラブルシューティング

本章では本製品の導入時に想定される問題と、その対処方法を説明します。次に記す対処方法により解決できない場合は、プリントサーバーの初期化を行ってください。初期化を行っても、解決できない場合は故障が考えられます。販売会社、担当営業または、保守会社に連絡してください。

【初期化について】

プリントサーバーの設定情報印刷を実行した後に初期化を実行してください。操作方法は「第1章 本製品について」のプッシュスイッチの機能を参照してください。初期化実行後は、設定情報印刷結果を元に設定を行い、動作確認をしてください。

No.	現象	原因	対処方法
1	自己診断印刷結果にNGがある。	本製品がプリンタに正しく取り付けられていない。または、ネットワークケーブルが正しく接続されていない。	①ROM、RAM Check が NG の場合、本製品がプリンタに正しく取り付けられていない可能性がありますので、本製品を取り付け直してください。 ②EEPROM Check が NG の場合、本製品がプリンタに正しく取り付けられていない可能性がありますので、本製品を取り付け直し、ディップスイッチの設定を確認してください。 ③NIC Check が NG の場合、ネットワークケーブルが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。
2	CD-ROM を挿入してもメインメニューが起動しない。	Windows 環境でご使用の場合、お使いのパソコンによっては、CD-ROM をセットしてもメニュー画面が自動的に起動しないことがあります。	ルートディレクトリ(お使いの CD-ROM が D ドライブなら、「D:¥」)にある[Autorun.exe]を直接実行してください。
3	設定ユーティリティ (Quick Setup、PI-Print Manager) で検索を行っても、本製品が一覧に表示されない。またはネットワーク上で認識されない。	(1)プリンタの電源が ON になっていない。	プリンタの電源を ON してください。
		(2)本製品がプリンタに正しく取り付けられていない。またはネットワークケーブルが正しく接続されていない。	自己診断印刷(印刷方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行い、印刷結果に NG がないか確認してください。NG があった場合、本表 No.1 の対処方法を参照し、処置してください。
		(3)稼動している本製品と接続イーサネットハブ(HUB)の LINK LED が点灯していない。	・ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ・イーサネットハブ(HUB)のポートが故障していないか確認してください。 ・ネットワークケーブルが断線していないか確認してください。
		(4)Windows 環境でファイアウォール機能が有効になっている。	Windows 環境で TCP/IP プロトコルをご使用になる場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」-「詳細設定」-「インターネットからこのコンピュータへのアクセスを制御したり・・・」のチェックを外してください。
		(5)ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっている。	一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。
		(6)TCP/IP Protocol が使用できなくなっている。	設定情報印刷(印刷方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行い、印刷結果から「TCP/IP Protocol」設定が「ENABLE」になっているか確認してください。「DISABLE」の場合、本製品の初期化(操作方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行ってください。なお、初期化を行った後は、ご利用のネットワーク環境に合わせて、再度設定を行ってください。

No.	現象	原因	対処方法
4	IP アドレスの設定を行うと通信エラーになる。	(1)本製品と通信ができていない。	本表 No.3(1)~(3),(6)の対処を参照し、対処してください。
		(2)設定ユーティリティを起動しているパソコンの IP アドレスが確定していない。	ご使用のパソコンとネットワークに存在する他のパソコンが通信できているか確認してください。 例)Windows のコマンドプロンプトで Ping を実行する場合 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」で、Ping xxx.xxx.xxx.xxx を実行すると下記内容が表示されます。 xxx.xxx.xxx.xxx は設定ユーティリティを起動しているパソコンの IP アドレスです。 Ping に応答がある場合、 「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx:~」を表示し、Ping に応答がない場合は、「Request timed out.」を表示します。
		(3)ご使用のパソコンが本製品と同一セグメントに存在しない。	ご使用のパソコンの IP アドレスと、本製品に設定しようとしている IP アドレスが同一セグメントであることを確認してください。
		(4)ネットワーク上 DHCP/BOOTP サーバまたは RARP サーバが存在している。	IP アドレスの自動割当をおこなうため、本製品に設定した IP アドレスが書き換えられてしまう可能性がありますので、「DHCP/BOOTP」および「RARP」設定を「DISABLE」にしてください。
		(5)本製品の設定値が異常な設定になっている。	本製品の初期化(操作方法については、「第 1 章本製品について」を参照)を行ってください。なお、初期化を行った後は、ご利用のネットワーク環境に合わせて、再度設定を行ってください。
5	印刷ができない。	(1)ご使用のパソコンと本製品が通信できていない。	・本表 No.3(1)~(3),(6)の対処を参照し、対処してください。 ・ご使用のパソコンと本製品が通信できているか確認してください。 例)Windows OS のコマンドプロンプトで Ping を実行する場合 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」で、Ping xxx.xxx.xxx.xxx を実行すると下記内容が表示されます。 xxx.xxx.xxx.xxx は設定ユーティリティを起動しているパソコンの IP アドレスです。 Ping に応答がある場合は、 「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx:~」を表示し、Ping に応答がない場合は、「Request timed out.」を表示します。
		(2)使用しているプリンタドライバの印刷先ポートが設定できていない。	「プリンタ」のプロパティの「詳細」で「印刷先のポート」が正しいか確認してください。
		(3)ネットワーク上 DHCP/BOOTP サーバまたは RARP サーバが存在している。	IP アドレスの自動割当をおこなうため、本製品に設定した IP アドレスが書き換えられてしまう可能性がありますので、「DHCP/BOOTP」および「RARP」設定を「DISABLE」にしてください。
		(4)ご使用のパソコンが本製品と同一セグメントに存在しない。	「サブネットマスク」および「ゲートウェイアドレス」が正しく設定されているか確認してください。
		(5)印刷データに排出コマンドがない。	印刷データに排出コマンドがあるか確認してください。(本製品の「EOJ string」や「EOJ string(kanji)」に「¥f」を指定しておく、と、排出コマンドを持たないテキストデータ等を排出します。)

No.	現象	原因	対処方法
6	複数 JOB を連続印刷すると、途中で印刷が停止し、しばらくすると印刷を再開する。	Windows の標準印刷クライアントである LPR ポートの仕様により、発生する場合があります。	本製品に付属している RI-Print の LPR ポートを使用してください。
7	印刷中のエラーを長時間放置した後に印刷を再開すると、同じ内容の印刷を繰り返すことがある。	Windows の印刷ポートの仕様により、印刷でタイムアウトが発生した場合、JOB の先頭から印刷データを再送します。	対象 JOB を一旦 Windows のスプーラーから削除した後、未印刷データのみ再送してください。
8	印刷中に通信エラーが発生した後、回復させ「再試行」すると文字化けが発生する。	プリンタに印刷データが残っている状態で、「再試行」により JOB 先頭から印刷データを送信した場合、データ不正となり、文字化けする場合があります。	プリンタの電源を OFF/ON し、用紙を再セットした後、「再試行」してください。
9	印刷中にエラーが発生する。	他の人が大量に印刷していたり、大きなサイズのデータを印刷している時に印刷を行い、他の人の印刷終了まで長時間待たされた場合、タイムアウトが発生して、エラーになる場合があります。	再度印刷を行ってください。
10	印刷を行うとダイヤルアップが起動する。	Windows の仕様です。	ダイヤルアップを「キャンセル」してください。ダイヤルアップアダプタから本製品に処理が移行され、印刷を開始します。
11	印刷が途中で停止したり、文字が化けて印刷される。	Windows の Standard TCP/IP ポートの LPR モードの仕様により、発生する場合があります。	・「LPR バイトカウントを有効にする」をチェックしてください。 ・本製品に付属している RI-Print の LPR ポートを使用してください。
12	エラー発生により以降のデータが印刷されない場合がある。	Another 設定項目内の Print Trap Address が“0.0.0.0”以外に設定されている。	Another 設定項目内の Print Trap Address を“0.0.0.0”に設定してください。
13	NetBEUI, NetBIOS over TCP/IP 環境で印刷した時、エラーメッセージを表示する。	Microsoft Network 印刷の仕様により、プリンタの状態により、エラーメッセージが表示される場合があります。	運用上、問題がある場合は、RI-Print の LPR ポートからの印刷を使用してください。

No.	現象	原因	対処
14	SSL を使用して印刷をすると、エラーメッセージが表示される。	SSL 証明書が作成されていない。	Web ブラウザで本製品にアクセスし、SSL 証明書が作成されているか確認してください。SSL 証明書が作成されていない場合は、SSL 証明書を作成してください。
15		SSL 証明書の有効期限が切れている。	Web ブラウザで本製品にアクセスし、SSL 証明書の有効期限を確認してください。有効期限が切れている場合は、SSL 証明書を再発行してください。
16	SSL の設定ができない、印刷ポートが作成できない。	Secure Print が DISABLE になっている。	Secure Print 設定の Secure Print を ENABLE にしてください。
17		SSL Mode の設定が CUSTOM になっていて、かつ HTTPS、IPP が DISABLE になっている。	SSL Mode の設定から、HTTPS と IPP を ENABLE にしてください。
18		接続先プリンタの URL が「HTTP://」で始まっている。	「HTTPS://」に変更してください。「HTTP://」ではセキュア通信印刷機能が動作しません。
19	Web ブラウザ設定の表示文字が化ける。	OS および Internet Explorer の仕様による。	OS および Internet Explorer の修正プログラムにより、最新版にアップデートしてください。



参考

・SSLとはSecure Socket Layerの略称です。SSLはインターネットで個人情報などを入力する際に盗聴やなりすまし防止に利用される通信方式で、一般化されたセキュリティ機能のひとつです。本製品は、このSSLを利用したセキュア通信印刷機能を有しています。本機能により、パソコンから印刷を行う際に印刷データを暗号化し、プリントサーバーで複合化することを実現しています。

IPv6機能について	付録-2
IPv6 とは?	付録-2
本製品IPv6機能概要	付録-3
IPv6に対応する操作	付録-3
本製品のIPv6アドレス	付録-3
利用方法	付録-4
本製品のIPv6機能を有効にする	付録-4
OSのIPv6機能を有効にする	付録-4
Print Port関連の設定について	付録-7
セキュリティレベル設定機能	付録-9
セキュリティレベルの設定	付録-9
セキュア通信印刷機能について	付録-10
WebブラウザやTelnetでSSLの設定を行う	付録-10
WebブラウザでSSL証明書の設定を行う	付録-12
Windows Vista でセキュア通信をする	付録-14

IPv6 機能について

本製品に搭載されるIPv6機能についての利用方法と制限事項について説明します。

IPv6 とは？

TCP/IP は Internet とともに広く普及してきたプロトコルですが、現在の Internet Protocol (IPv4)では、ホストアドレスを表わすためのフィールドが 32bit しかないため、あと数年すればそのアドレス空間が枯渇してしまう見込みとなっています。そこで、アドレス空間の拡大を図り、さらに従来の TCP/IP で問題となっていた部分を修正したり、欠けていた機能を追加して、新しいプロトコル体系の取り決めが行われています。

それが Internet Protocol, Version 6 (IPv6) です。



注意

- ・IPv6 機能のご利用にあたっては、本製品だけでなくネットワークを構成する各ネットワーク機器(Router や PC)が IPv6 に対応している必要があります。
- ・本機能は SSL 非対応版のファームウェアに含まれる機能です。

本製品 IPv6 機能概要

IPv6に対応する操作

本製品のIPv6機能ではIPv6ネットワークにて以下の操作を行うことができます。

- * TELNET または HTTP による設定
- * FTP または LPR による印刷
- * ping6 コマンドによる応答確認
- * traceroute6 コマンドによる経路追跡

本製品のIPv6アドレス

本製品のリンクローカルアドレスは以下のとおりです。リンクローカルアドレス:

FE80:0:0:0:0280:92FF:FE xx : $yyzz$

($xyyyzz$ は本製品のEthernetアドレスの下3桁です)



参考

IPv6 ネットワーク上にステートレス自動設定機能を持つ IPv6 ルータが存在する場合は、ルータ から自動設定することができます。



注意

制限事項

- ・本製品のIPv6アドレス設定方法はリンクローカル及びステートレス自動設定の2種類だけです。マニュアル設定およびステートフル自動設定(DHCPv6)には対応していません。
- ・セキュリティ機能は認証ヘッダ(AH)、暗号ペイロード(ESP)ともに対応していません。
- ・IPv6ヘッダのトラフィック・クラスおよびフロー・ラベルは 0 固定です。
- ・巨大ペイロード・オプションには対応していません。
- ・パケットの断片化／再構成には対応していますが、ヘッダ部を含め 3072byte を上限としています。
- ・SNMPの IPv6 MIB には対応していません。
- ・IPv6ネットワーク上における付属ツールの一覧検索には対応していません。
- ・IPv6を利用してバナーページの印刷を行った場合、IPアドレス部分は 0.0.0.0 として印刷されます。

利用方法

本製品のIPv6機能を有効にする

本製品のIPv6機能は工場出荷時設定にて機能しないよう設定されています。IPv6機能を有効にするには以下の操作を行います。

- (1) 通常のTCP/IP設定によりIPv4アドレスを割り当てます。
(通常のTCP/IP設定は、本製品に付属するクイックガイドを参照ください。)
- (2) Webブラウザ、または、telnetコマンドを用いて本製品にアクセスします。
- (3) 本製品の「TCP/IP設定」の「IPv6」項目を“ENABLE”に設定します。
- (4) 設定を保存後、本製品を再起動します。以上の操作にて本製品 IPv6機能が有効になります。

OSのIPv6機能を有効にする

ここでは Windows 7 上でのIPv6環境構築例を記載します。その他OS環境下でのIPv6環境構築方法に関しましては、各OSのマニュアルをご参照ください。

- (1) Windows 7のIPv6機能を有効にする コマンドプロンプトを起動し、“ipv6.exe”を実行します。

(コマンド入力例)

```
C:¥> ipv6 install
```



参考

ipv6.exe に関する詳しい操作方法は、マイクロソフト社のWebページをご参照ください。

(2) HostsファイルにIPv6アドレスを登録する

Windows 7 のHostsファイルに本製品のIPアドレスとホスト名との関連付け情報を登録します。

Hostsファイルに関連付け情報を登録することで、IPアドレスではなくホスト名を指定して本製品と通信できるようになります。

Windows 7のHostsファイルは下記フォルダに格納されています。メモ帳などを用いて本製品の情報を追加してください。

格納先フォルダ： C:\windows\system32\drivers\etc
 (OSインストールドライブがC:の場合) ファイル名
 : hosts



参考

(Hostsファイル入力例)

```
# Copyright (c) 1993-2009 Microsoft Corp.

#
# This is a sample HOSTS file used by Microsoft TCP/IP for Windows.
#
# Additionally, comments (such as these) may be inserted on individual
# lines or following the machine name denoted by a '#' symbol.
#
# For example:
#
#       102.54.94.97       rhino.acme.com       # source server
#       38.25.63.10      x.acme.com           # x client host

127.0.0.1                localhost
fe80::280:92ff:fe12:3456 C5200H
本製品のIPアドレス     本製品のホスト名(任意)
```

(3) Windows 7付属の下記ユーティリティで本製品へのアクセスを行う。Windowsでは下記の操作が可能です。

- ・Internet Explorer による本製品の設定操作
- ・UNIX用印刷サービスによるアプリケーション印刷操作
- ・コマンドプロンプトからの “lpr”、“FTP”コマンドを使用しての印刷動作
- ・コマンドプロンプトからの “ping6”コマンドを使用しての応答確認



注意

- ・Windows 標準の印刷サービスである、Standard TCP/IP port印刷、IPP印刷はIPv6環境に対応していません。
GUI操作による印刷を行う場合はWindows の追加サービスである「UNIX用印刷サービス」をWindowsコンポーネントに追加してご利用ください。
- ・Internet Explorer6およびUNIX用印刷サービスで本製品のアドレスを指定する場合は、Hosts ファイルに登録したHost名を指定してください。
IPアドレスの直接指定はWindows の仕様上対応されていません。

Print Port 関連の設定について

本製品のPrint Port関連の設定について説明します。

1. BOJ string 直接出力ポート (lp ポート) へ出力する前に、プリンタに送信する文字列を指定します。印刷前に制御コード等を送る場合は、文字列を設定してください。設定できる文字列は、31文字以内の任意の文字列です。また、文字列以外に以下のような特殊文字列も送出できます。デフォルトは“なし”です。

¥b	: バックスペースコード(0x08)
¥t	: タブコード(0x09)
¥n	: 改行コード(0x0d)
¥v	: 垂直タブコード(0x0b)
¥r	: 復帰コード(0x0a)
¥f	: 改ページコード(0x0c)
¥nn	: nnで表示される16進数コード
¥"	: "マーク(0x22)
¥¥	: ¥マーク(0x5c)

2. EOJ string 直接出力ポート(lpポート)へ出力した後に、プリンタに送出する文字列を指定します。印字前に制御コード等を送る場合は、文字列を設定してください。設定できる文字列は、31文字以内の任意の文字列です。また、文字列以外にBOJ string同様、特殊文字列も送出できます。デフォルトは“なし”です。
3. BOJ string(KANJI) 漢字フィルタ経由出力ポート(EUC,SJISポート)へ出力する前に、プリンタに送信する文字列を指定します。印刷前に制御コード等を送る場合は、文字列を設定してください。設定できる文字列は、31文字以内の任意の文字列です。また、文字列以外に以下のような特殊文字列も送出できます。デフォルトは“なし”です。
4. EOJ string (KANJI) 漢字フィルタ経由出力ポート (EUC、SJIS ポート)へ出力した後に、プリンタに送出する文字列を指定します。印字前に制御コード等を送る場合は、文字列を設定してください。設定できる文字列は、31文字以内の任意の文字列です。また、文字列以外にEOJ string 同様、特殊文字列も送出できます。デフォルトは“なし”です。

5. Printer Type 漢字フィルタ経由で出力するときの漢字プリンタタイプを設定します。
本製品は以下 10 種類のプリンタ漢字コードに対応しています。デフォルトは“ESC/P”です。

ASCII : 漢字変換しない。CR/LF、TAB変換のみ行います。
SJIS : シフト JIS コードに変換する。
EUC : EUC コードに変換する。
LIPS : LIPS漢字コードに変換する。
ESC/P : ESC/P漢字コードに変換する。文字ピッチをハイサイズにセットする。

6. TAB size 漢字フィルタ経由で出力する際に、TABコードを半角スペースに変換する際の文字サイズを指定します。設定値は0～16です。デフォルトは“8”です。

7. Page width 漢字フィルタ経由で出力するときのページ長を設定します。設定値は0～255です。デフォルトは“0”です。

8. Page length 漢字フィルタ経由で出力するときのページ幅を設定します。設定値は0～255です。デフォルトは“0”です。

9. ftp/lpr banner FTP または LPR で印刷するとき、バナーページ漢字フィルタ経由で出力するときのページ幅を設定します。設定値は0～255です。デフォルトは“0”です。

セキュリティレベル設定機能

セキュリティレベルの設定

本製品は任意のプロトコル(サービス)を有効または無効にすることができます。プロトコル(サービス)を無効にすると、該当プロトコル(サービス)での通信を排除し、有効設定されているプロトコル(サービス)のみ通信を行います。セキュリティレベル設定機能は3段のセキュリティレベルを用途に応じて設定することができます。設定範囲は下表の通りです。なお、セキュリティレベルをCUSTOMに設定すると、プロトコル(サービス)個々に有効/無効の設定を行うこともできます。

セキュリティレベル	LPR	RAW	IPP	HTTP	HTTPS	Telnet	FTP	SNMP	SETUP Protocol
CUSTOM	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Level1	○	○	○	○	○	×	×	×	○
Level2	×	×	○	×	○	×	×	×	×

◎:有効(設定により無効)

○:有効(有効固定)

×:無効(無効固定)



注意

- ・「CUSTOM」を選択した場合、「HTTP」、「HTTPS」、「Telnet」のいずれかを必ず有効にしてください。
- ・「CUSTOM」を選択し、「HTTPS」のみ有効にする場合は、事前に「SSL 設定」項目の「暗号化を使用する」を「ENABLE」に設定し、SSL 証明書の作成を必ず行ってください。
- ・SSL 対応版ファームウェアを使用すると、一部使用できないプロトコルがあります。詳細については、「第1章 本製品について」「第4章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・SSL 未対応版ファームウェアへのアップデート方法は、「第2章 セットアップユーティリティ」を参照してください。
- ・本機能は SSL 対応版のファームウェアに含まれる機能です。

セキュア通信印刷機能について

Web ブラウザや Telnet で SSL の設定を行う

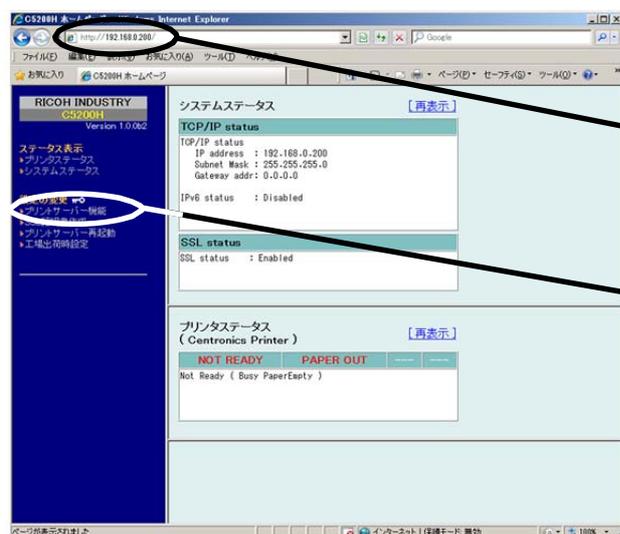
セキュア通信(SSL 通信)をするために、本製品の設定をします。



注意

- ・SSL の設定を行う前に、本製品の IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は「はじめに」を参照してください。
- ・SSL を使用して印刷するには、SSL 証明書および有効期限の設定が必要になります。SSL 証明書は Web ブラウザの「SSL 証明書作成」から作成できます。
- ・「IPP ポート」以外の印刷ポートでは、セキュア通信印刷機能は使用できません。
- ・「IPP ポート」からセキュア通信印刷機能を使用して印刷する場合の URL は “https:// ~” と指定してください。“http:// ~” と指定すると、セキュア通信印刷機能は動作しません。
- ・SSL 対応版ファームウェアを使用すると、一部使用できないプロトコルがあります。詳細については、「第 1 章 本製品について」「第 4 章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・SSL 未対応版ファームウェアへのアップデート方法は、「第 2 章 セットアップユーティリティ」を参照してください。
- ・Windows Vista で使用する場合は、IPP ポート作成前に予め、SSL 証明書のダウンロードが必要になります。

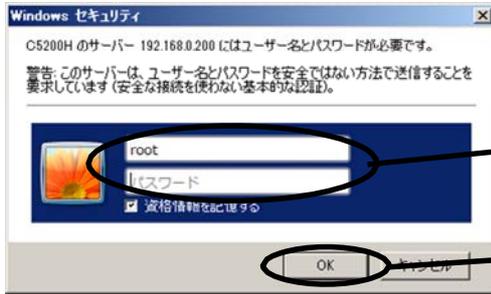
1. Web ブラウザを起動し、本製品に接続します。



本製品の IP アドレスを入力してください。

「プリントサーバー機能」をクリックしてください。

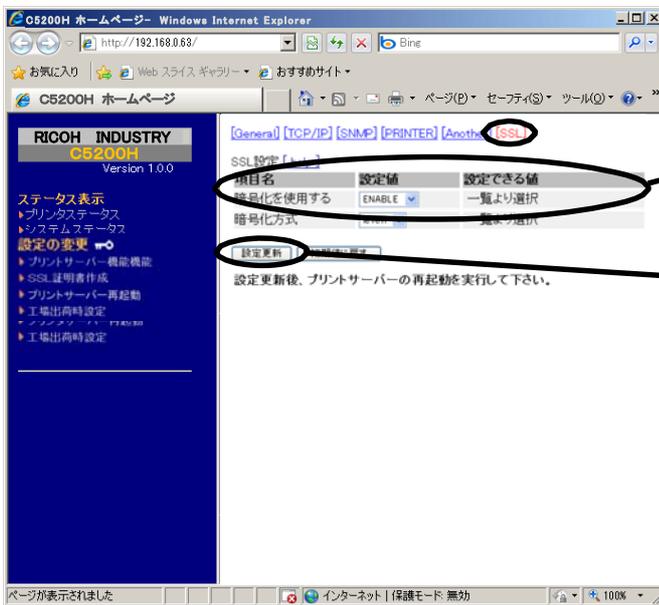
2. ログインユーザー名/パスワードを入力します。



ログインユーザー名に“root”と入力してください。rootパスワードを設定している場合はパスワードに設定している文字列を入力してください。

OK をクリックしてください。

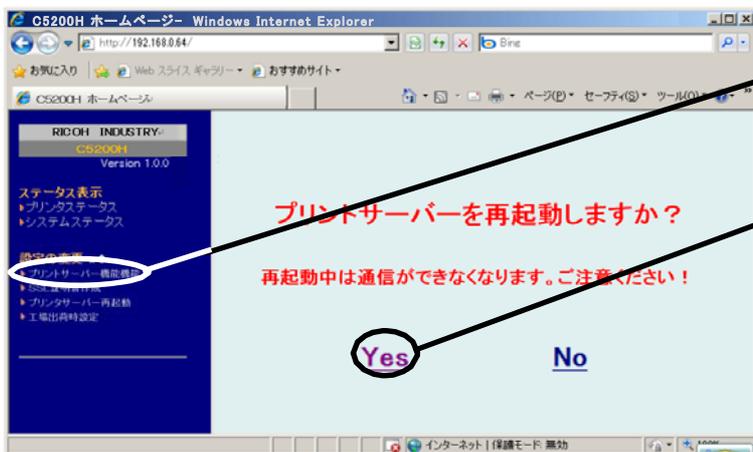
3. 「プリントサーバー機能」から「SSL」をクリックし、SSL設定を“ENABLE”にして設定更新してください。



各種設定項目を設定してください。

設定更新をクリックしてください。

4. 本製品を再起動し、設定したSSL機能を有効にします。



「プリントサーバー再起動」をクリックしてください。

「Yes」をクリックしてください。

Web ブラウザで SSL 証明書の設定を行う

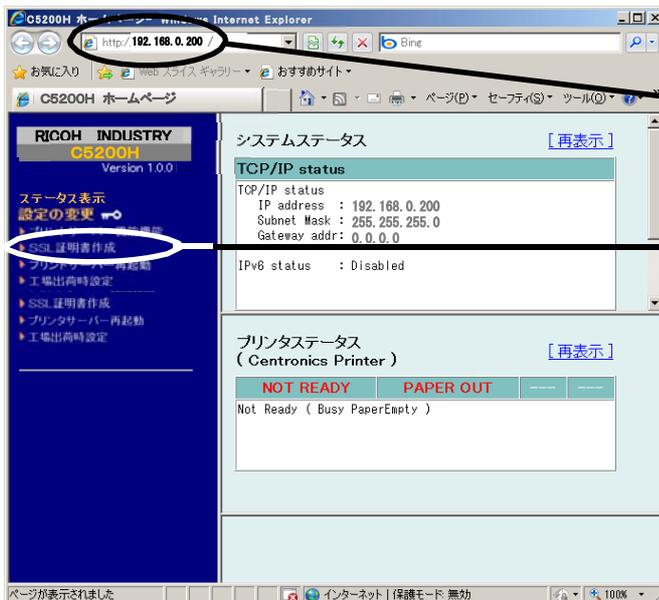
セキュア通信(SSL 通信)をするために、SSL 証明書情報を本製品に設定をします。



注意

- SSL 証明書情報の設定を行う前に、本製品の IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は「はじめに」を参照してください。
- SSLを使用して印刷するには、SSLの設定が必要になります。SSLの設定方法は本章「WebブラウザやTelnetでSSLの設定を行う」を参照してください。
- 「IPPポート」以外の印刷ポートでは、セキュア通信印刷機能は使用できません。
- 「IPPポート」からセキュア通信印刷機能を使用して印刷する場合のURLは “https:// ~”と指定してください。“http:// ~”と指定すると、セキュア通信 印刷機能は動作しません。
- Windows Vistaで使用する場合は、IPPポート作成前に予め、SSL証明書のダウンロードが必要になります。

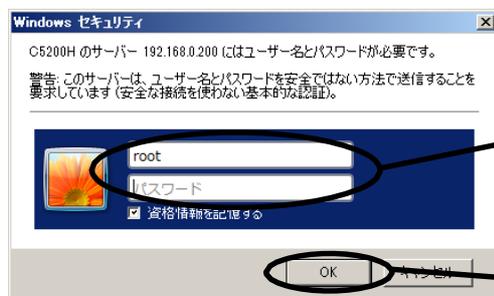
1. Webブラウザを起動し、本製品に接続します。



本製品の IP アドレスを入力してください。

「SSL 証明書作成」をクリックしてください。

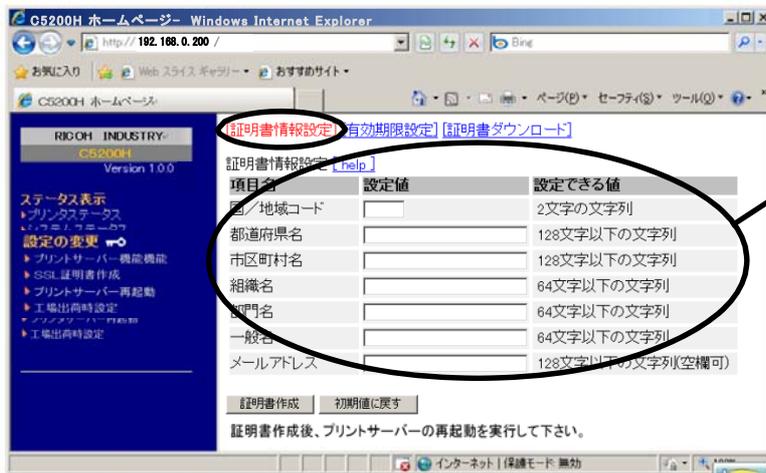
2. ログインユーザー名/パスワードを入力します。



ログインユーザー名に“root”と入力してください。rootパスワードを設定している場合はパスワードに設定している文字列を入力してください。

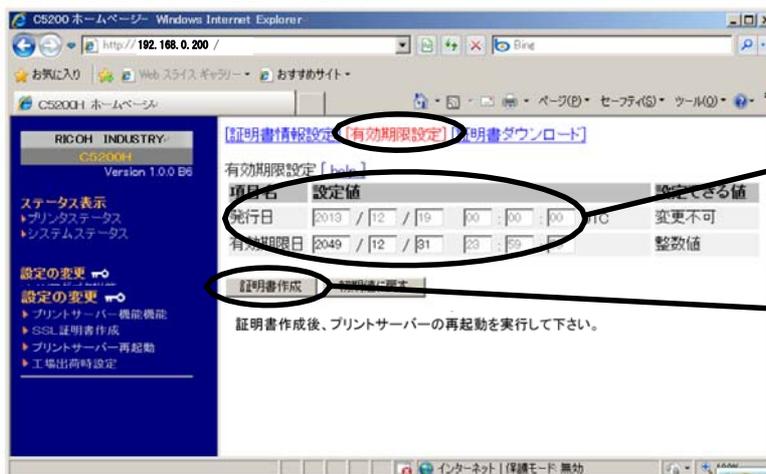
OK をクリックしてください。

3.[証明書情報設定]を登録します。



各種設定項目に必要な事項を入力してください。

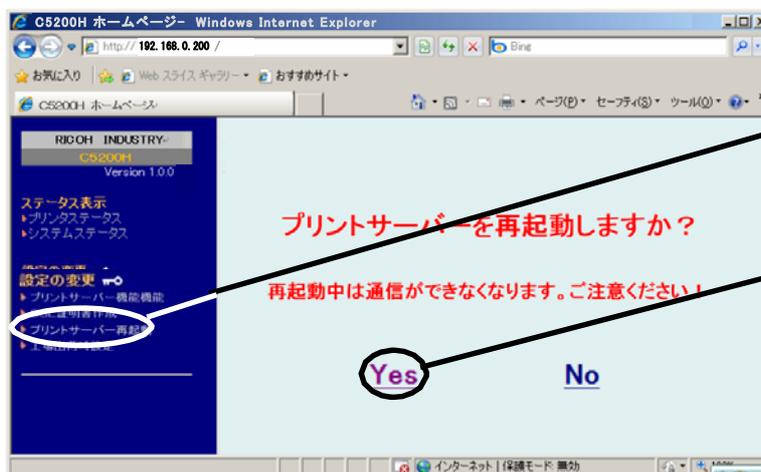
4.[有効期限設定]を登録します。



「有効期限」に日付を入力してください。

「証明書作成」ボタンをクリックしてください。

5.本製品を再起動し、設定したSSL機能を有効にします。



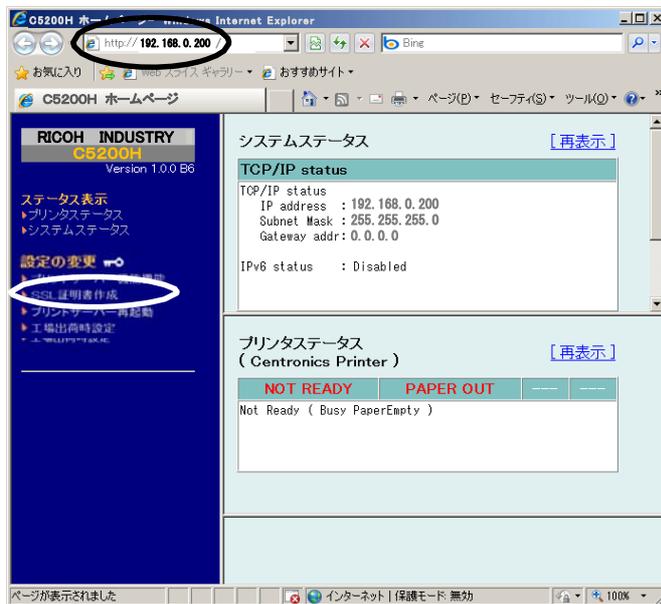
「プリントサーバー再起動」をクリックしてください。

「Yes」をクリックしてプリントサーバーを再起動してください。

Windows Vista でセキュア通信印刷をする

Windows Vista でセキュア通信印刷を行うためには、IPP ポートを追加する前に、Web ブラウザから SSL 証明書のインストールを行う必要があります。この操作は、SSL 証明書作成後に、IPP ポート追加作業を行う前に実施してください。なお、本作業は印刷を実行する パーソナルコンピュータ毎に実施してください。

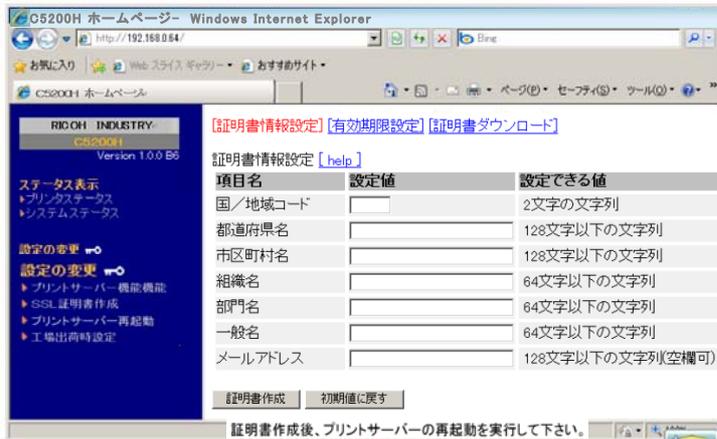
1. Webブラウザを起動し、本製品に接続します。
2. Webページ右側のメニューから「SSL証明書作成」をクリックしてください。



3. パスワード認証画面が表示されます。工場出荷時設定の場合は、ユーザ名に「root」、パスワード無し(リターン押下)を入力して「OK」をクリックします。

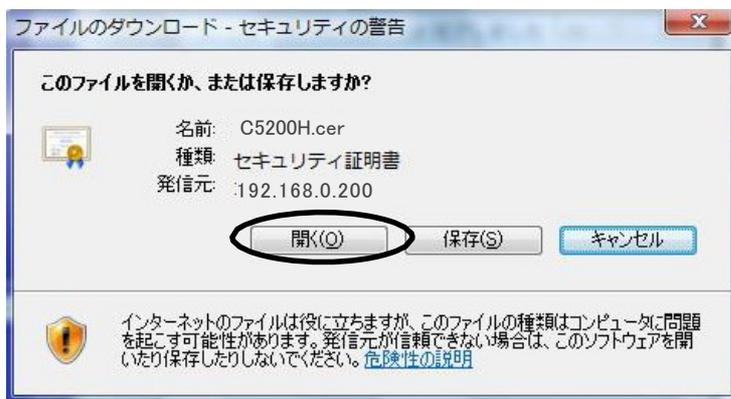


4. 「証明書ダウンロード」をクリックして、表示されたページで「証明書ダウンロード」をクリックします。

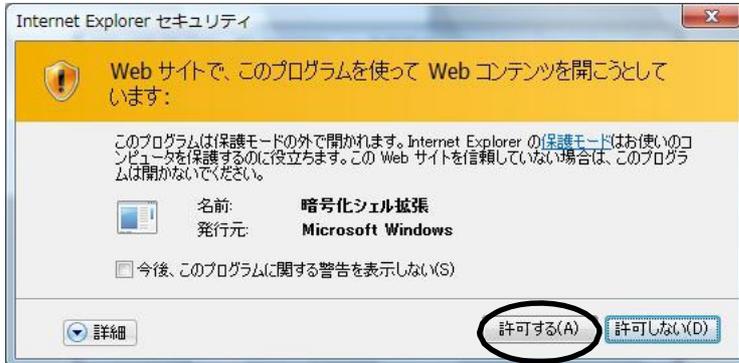


(ファームウェアをバージョンアップ直後はダウンロードできない場合があります、その場合は証明書作成し直してください)

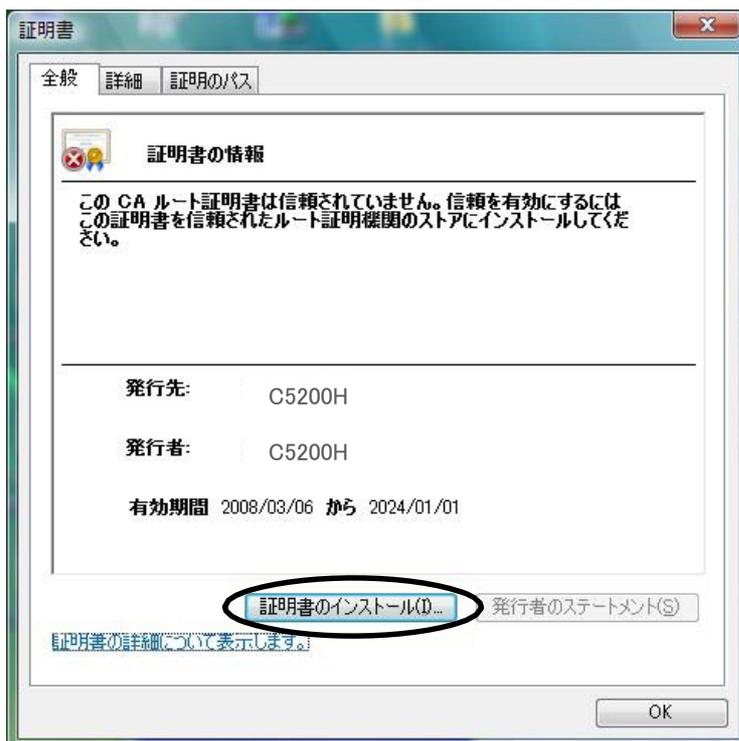
5. セキュリティのダイアログで「開く」をクリックしてください。



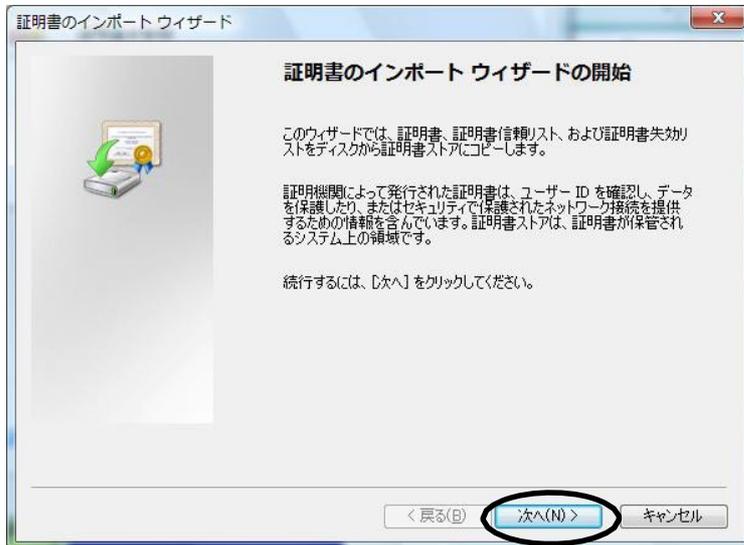
6. Internet Explorerセキュリティダイアログで、「許可する」をクリックしてください。



7. 証明書ダイアログを表示します。『証明書のインストール』をクリックしてください。

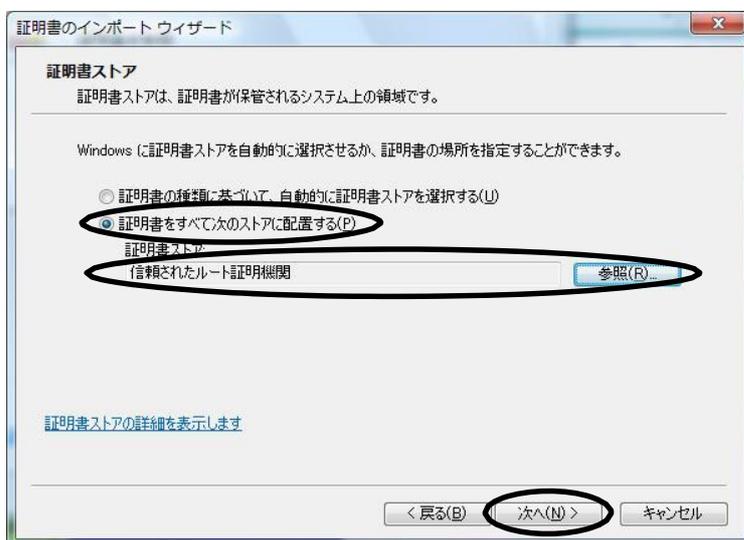


8. 証明書のインポートウィザードが起動します。「次へ」をクリックしてください。



9. 「証明書をすべて次のストアに配置する」を選択し「参照」をクリックします。

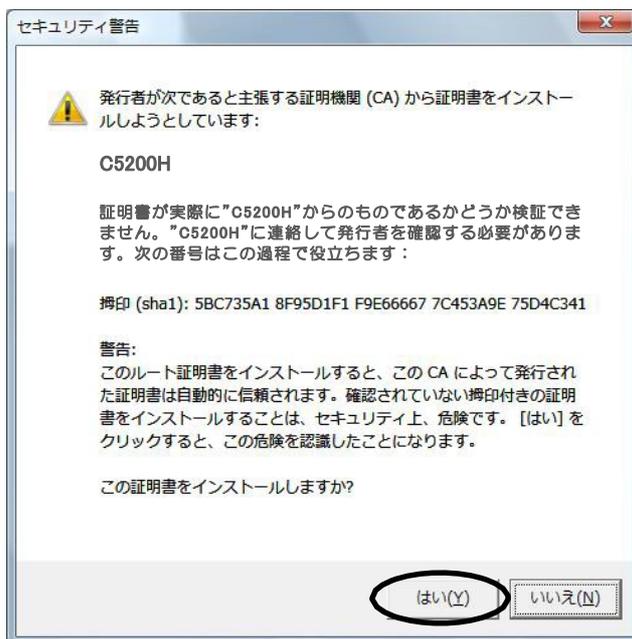
表示されたダイアログで「信頼されたルート証明機関」を選択し「次へ」をクリックしてください。



10.「完了をクリックしてください。」



11.セキュリティ警告ダイアログでは、「はい」をクリックしてください。



12. 証明書のインポートが完了しました。証明書のインポートウィザードダイアログで「OK」をクリックしてください。この後にIPPポートを追加してください。



■規制、対策などについて

●電波障害自主規制について

本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的とした基準となっていますが、この装置がラジオやテレビジョン装置に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

●電源の瞬時電圧低下対策について

落雷等による電源の瞬時電圧低下によって不具合が生じる事があります。対策として交流無停電電源装置を使用されることを推奨します。（社団法人電子技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

●輸出管理規制

本製品を輸出する場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規制等の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。尚、ご不明な場合は、お買い求め先にお問い合わせください。

■権利について

- ・記載の会社名、製品名やロゴは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。
- ・このマニュアルやマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。マニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載又は引用することは禁じられています。